

白石遺跡

—第6次発掘調査報告書—

1997.5

岩手県宮古市教育委員会

白石遺跡

—第6次発掘調査報告書—



白石遺跡空中写真

1997.5

岩手県宮古市教育委員会

The Miyako Board of Education Miyako, Iwate, Japan.

序 文

市内北部に位置する崎山地区には縄文時代を中心とする遺跡が密集して居り、古来多くの研究者がこの地を訪れ発掘調査を実施しています。

これらの遺跡群の中でも特に崎山貝塚については、集落と貝塚がセットで保存されており、しかも縄文中期の集落造営時には大規模な土木工事が実施されていることが判明しました。この様に重要な内容を有することが評価されて、崎山貝塚は平成8年度に国の史跡として指定を受けています。

ところで、今回報告する白石遺跡は崎山貝塚の東側に隣接する縄文中期末葉～後期初頭の集落遺跡です。白石遺跡と崎山貝塚はほぼ同じ時期に衰退期を向えることから、両者は密接な関係にあった可能性が大きいと言えます。

さて、本書は株式会社神山工務店より依頼を受けて、宅地造成工事に先だち実施した緊急発掘調査の内容をとりまとめたものです。

調査の結果、縄文時代のお墓や貯蔵用の穴などが発見され、遺跡縁辺部の様子が次第に明らかになってきました。

本書が研究者のみならず、広く一般の方々にも活用され、埋蔵文化財保護のために少しでも役立てれば幸いと願っております。

最後になりましたが、発掘調査の実施から本書刊行にあたり御指導、御協力を賜りました関係各位に対して、心から感謝申し上げて序文といたします。

平成9年5月

宮古市教育委員会

教育長 中 屋 定 基

例 言

1. 本書は、平成8年度に実施した白石遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地造成工事の実施に先立ち、株式会社神山工務店より依頼を受けて宮古市教育委員会（教育長 佐藤勇逸）が主体となって実施した。
3. 発掘調査及び本書の執筆、編集は高橋が担当し、竹下・鎌田・阿部・工藤がこれを補佐した。
4. 調査座標は平面直角座標第X系を座標交換して使用したが、調査用の局地的な座標系であることを明示するためRを冠して表示した。
座標軸方向 第X系に準じる
調査座標原点 X - 35,800.000, Y + 97,000.000
5. 高さは標高値をそのまま使用した。
6. 土層の観察に際しては、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1967）を参考にした。
7. 遺構・遺物の表現については、次のとおりとした。



8. 本文中の引用文献は次のとおりとした。（いずれも宮古市教育委員会刊行）
- 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』 小田野哲憲
熊谷 常正 → 『大付報文79』
- 1983～86 『宮古市分布調査報告書1～4』 武田 将男 → 『分布調査1～4』
- 1986 『宮古市遺跡分布図 昭和60年度版』 武田将男 → 『分布図86』
- 1987～94 『崎山遺跡群 I～Ⅷ 昭和61年度～平成5年度発掘調査概報』 高橋憲太郎ほか
→ 『崎山遺跡群 I～Ⅷ』
- 1992 『金浜 I 遺跡・大付遺跡』 鎌田祐二 → 『大付報文92 a』
- 1992 『大付遺跡・平成3年度発掘調査報告書』 鎌田祐二 → 『大付報文92 b』
- 1995 『崎山貝塚 範囲確認調査報告書』 高橋憲太郎
三浦 千秋 → 『崎山貝塚95』
- 1996 『大付遺跡 平成5年度、平成6年度発掘調査報告書』 高橋憲太郎・三浦 千秋
橋本 晃一
→ 『大付報文96』

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査要旨	1
3 調査体制	2
II 遺跡をとりまく環境	2
III 調査の結果	6
1 調査の状況	6
2 基本層序	6
3 検出した遺構と遺物	9
(1) 土坑跡等	9
(2) 遺構外出土遺物	19
IV 調査のまとめ	19
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 位置図	3
第2図 白石遺跡周辺遺跡分布図	4
第3図 白石遺跡周辺地形図	5
第4図 白石遺跡第6次調査検出遺構配置図	7
第5図 土層断面図	8
第6図 第68号墓塚跡	9
第7図 第69～第71号土坑跡	11
第8図 第72号土坑跡	13
第9図 第73号～第77号土坑跡	15
第10図 第78号焼土遺構	18
第11図 白石遺跡第6次調査区出土遺物(1)	20
第12図 白石遺跡第6次調査区出土遺物(2)	21

図 版 目 次

- 第 1 図版 白石遺跡第 6 次調査区遠景・白石遺跡第 6 次調査 A 区全景
- 第 2 図版 白石遺跡第 6 次調査 A 区全景・白石遺跡第 6 次調査 A 区土層堆積状況
- 第 3 図版 第 68 号墓壙跡完掘状況・同遺物出土状況
- 第 4 図版 第 68 号墓壙跡土層堆積状況・第 69 号～第 71 号土坑跡
- 第 5 図版 第 69 号土坑跡完掘状況・同土層堆積状況
- 第 6 図版 第 70 号土坑跡完掘状況・同土層堆積状況
- 第 7 図版 第 71 号土坑跡完掘状況・同土層堆積状況
- 第 8 図版 第 73 号～第 77 号土坑跡完掘状況・同土層堆積状況
- 第 9 図版 第 78 号焼土遺構完掘状況・同土層堆積状況
- 第 10 図版 白石遺跡第 6 次調査 B 区全景・出土遺物(1)
- 第 11 図版 出土遺物(2)・同(3)

I 調査経過

1 調査に至る経過

白石遺跡は、宮古市の遺跡コードL G14-2195、岩手県の遺跡コードL G14-2194として登録されている周知の遺跡である。

白石遺跡の発掘調査は、これまでに第5次調査までが実施されているが、近隣の大付遺跡との境界が平成3年度の発掘調査をもって変更となったため（『大付報文 926』）、これに伴い白石遺跡でも調査次数の混乱が生じている。この点については、本書にて第1表のとおり改めることとする。

今回の発掘調査は、株式会社神山工務店より白石遺跡の東部に宅地造成工事を実施したいとの申し出が成されたことを発端とする。この後、株式会社神山工務店と宮古市教育委員会は事前協議を実施し、当該事業実施に先立ち、記録保存を前提とした緊急発掘調査を実施することで両者の同意が得られた。

このため、株式会社神山工務店は平成8年4月11日付けで発掘届を提出し、また、株式会社神山工務店より依頼を受けた宮古市教育委員会は発掘調査を実施することとした。

尚、発掘調査の次数は平成2年度に実施した第5次に続き、第6次調査とした。

調査次数	調査次数	調査年度	調査原因	検出遺構等	備考
第1次調査	第2次調査	昭和61年度	個人住宅建築	堅穴式居跡5棟、炉跡1基、柱穴群1基、土坑跡6基	崎山遺跡群Ⅱ
第2次調査	(未明名)	昭和63年度	市道拡幅工事	無し	
第3次調査	第3次調査	平成元年度	個人住宅建築	堅穴住居跡6棟、炉跡1基、土坑跡2基	崎山遺跡群Ⅳ
第4次調査	第4次調査	平成元年度	個人住宅建築 (倉庫建築)	堅穴住居跡6棟、柱穴群1基、土坑跡5基	崎山遺跡群Ⅳ
第5次調査	第5次調査	平成2年度	個人住宅建築 (倉庫建築)	堅穴住居跡7棟、炉跡1基、土坑跡53基	崎山遺跡群Ⅴ
第6次調査	——	平成8年度	宅地造成分譲	土坑跡等11基	本書

第1表 白石遺跡調査次数新旧対応表

2 調査要旨

第6次調査

調査地点 宮古市大字崎嶽ヶ崎第13地割字白石84-1、87-1、87-2、87-3

調査原因 宅地造成工事

調査期間 屋外調査 平成8年4月23日～平成8年6月4日

室内整理 平成9年2月17日～平成9年3月31日

調査対象面積 4,024 m²

調査面積 600 m²

検出遺構 墓塚跡1基、土坑跡9基、焼土遺構1基

出土遺物 縄文土器、石器、陶磁器など

3 調査体制

発掘調査の体制は、次のとおりである。

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 佐藤 勇逸
調査総括 浦野 光廣 宮古市教育委員会社会教育課長
事務担当 田鎖 春雄 宮古市教育委員会社会教育係長
 * 野崎 政博 宮古市教育委員会社会教育係社会教育主事
調査員 竹下 将男 宮古市教育委員会社会教育係主任
 * 高橋憲太郎 宮古市教育委員会社会教育係主任（調査担当）
 * 鎌田 祐二 宮古市教育委員会社会教育係主任
 * 三浦 千秋 宮古市教育委員会社会教育係主事
 * 阿部 豊 宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員
 * 工藤 剛司 宮古市教育委員会社会教育係埋蔵文化財調査員

発掘調査及び整理作業の実施にあたり、次の方々から多大なご協力をいただいた。（敬省略）

《地権者》 山下博、八重樫雄一、八重樫雄基、松田文子、株式会社神山工務店

《発掘調査》 伊藤晴男、北村忠治、佐々木茂実、大越貞蔵、中居勝二

《整理作業》 佐藤晴美

II 遺跡をとりまく環境

崎山遺跡群

宮古市北部の崎山地区には縄文時代を中心とする遺跡が多く分布し、これらの遺跡群は崎山遺跡群と総称されている。崎山遺跡群では明治時代以降、多くの研究者が訪れて調査を実施しているなど、学史的にも重要な内容を持つ遺跡を含んでいる。

小本丘陵

崎山地区は、古期の海岸段丘（小本丘陵^{おもときやうりやう}）上に立地しており、基盤岩は田老花崗岩体とデイサイト質火砕岩などを主体とする原地山層^{はらちやま}が中心となり、この上は更新世の火山灰で覆われているものの、概して段丘面の保存状態が悪く基盤岩の露出している箇所も多い。

縄文時代の遺跡の多くは、わずかに残された段丘面（九戸段丘に相当）や、これに連続する緩斜面上に立地している。尚、今のところ確実に旧石器時代まで上る資料は確認されていない。

崎山貝塚

崎山遺跡群内での主要な遺跡に目を向けると、まず、縄文時代前期初頭～後期前葉に営まれた崎山貝塚が上げられる。崎山貝塚は該期において、遺跡群内で中心的な性格を有し、前期～中期に形成された貝塚や、中期の集落造営時に大規模な土木工事が実施されるなど、極めて重要な内容を有しており、平成8年度に国の史跡として指定を受けている。

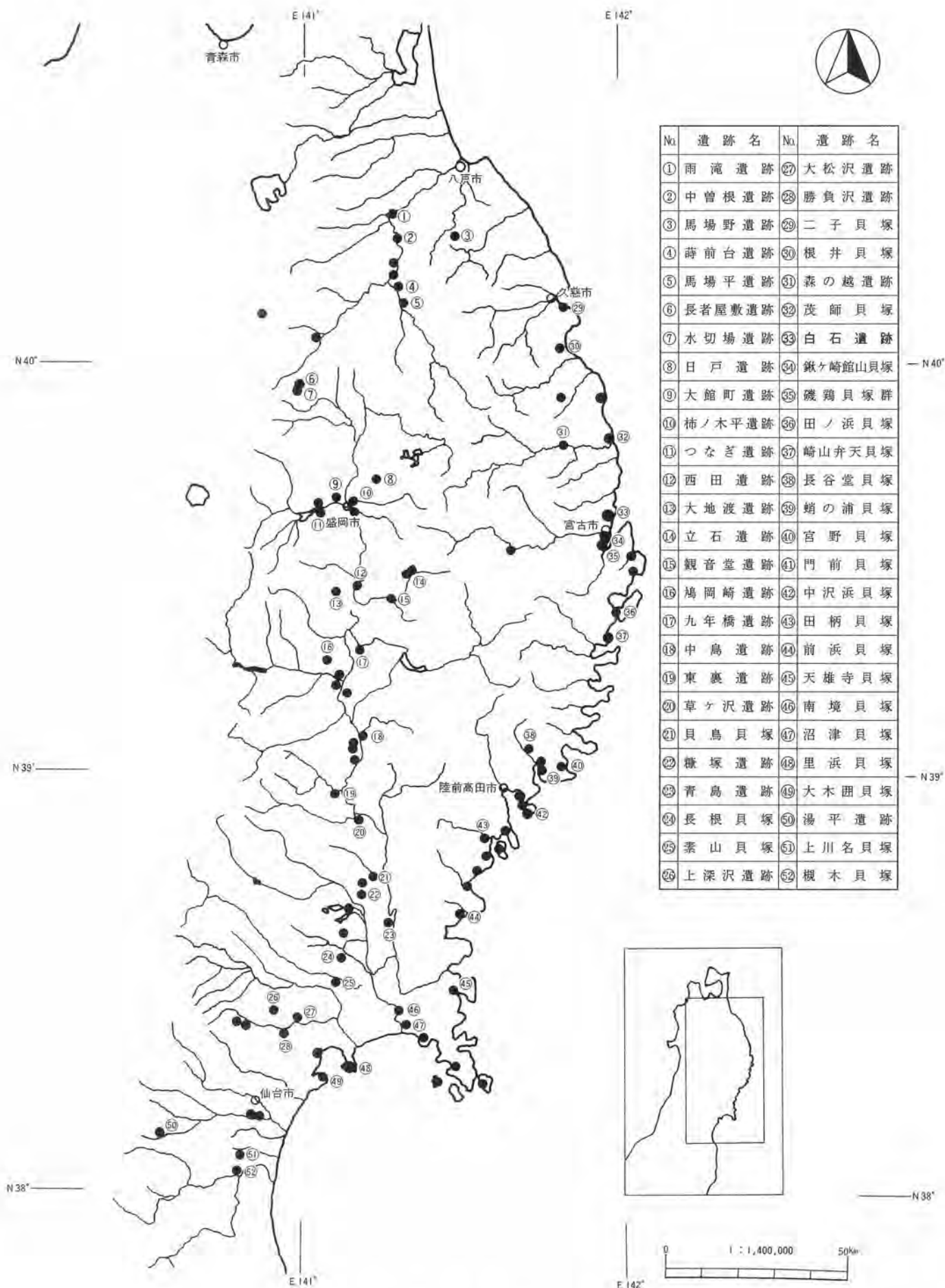
わたのは遺跡

大付遺跡(貝塚)

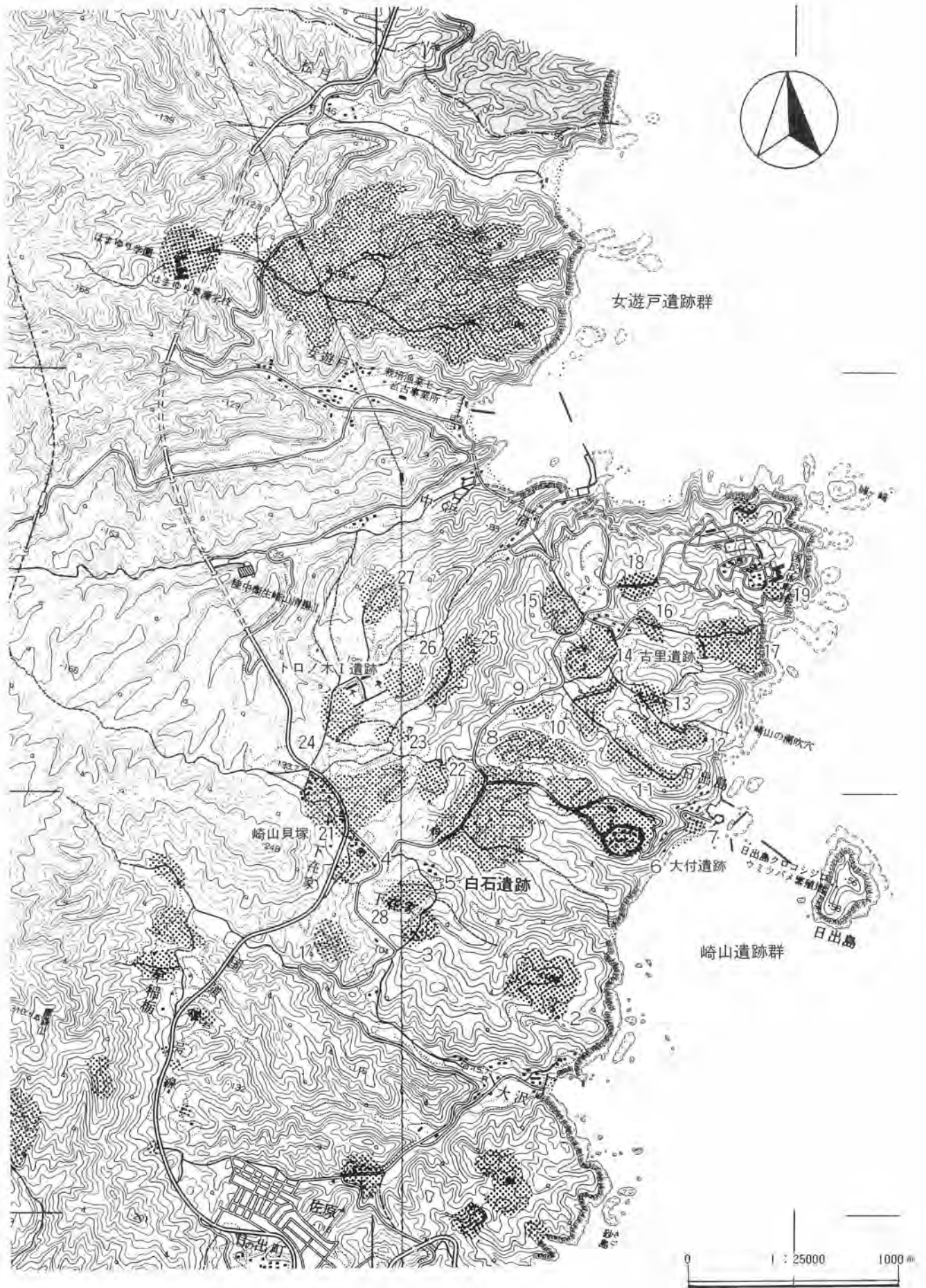
崎山貝塚以降では、わたのは遺跡にて後期の遺物が濃密に分布し、大付遺跡（大付貝塚）にて後期～晩期の集落や小規模ではあるが貝層等が形成されている。これらの遺跡は、崎山貝塚が衰退した後に遺跡群内で中心的な役割りを果たしたものと思われる。

一方、これらの遺跡とは異なり、比較的規模は大きいものの存続期間が土器型式にして2～3型式程度の遺跡の存在も知られて、今回報告する白石遺跡がこれに相当する。

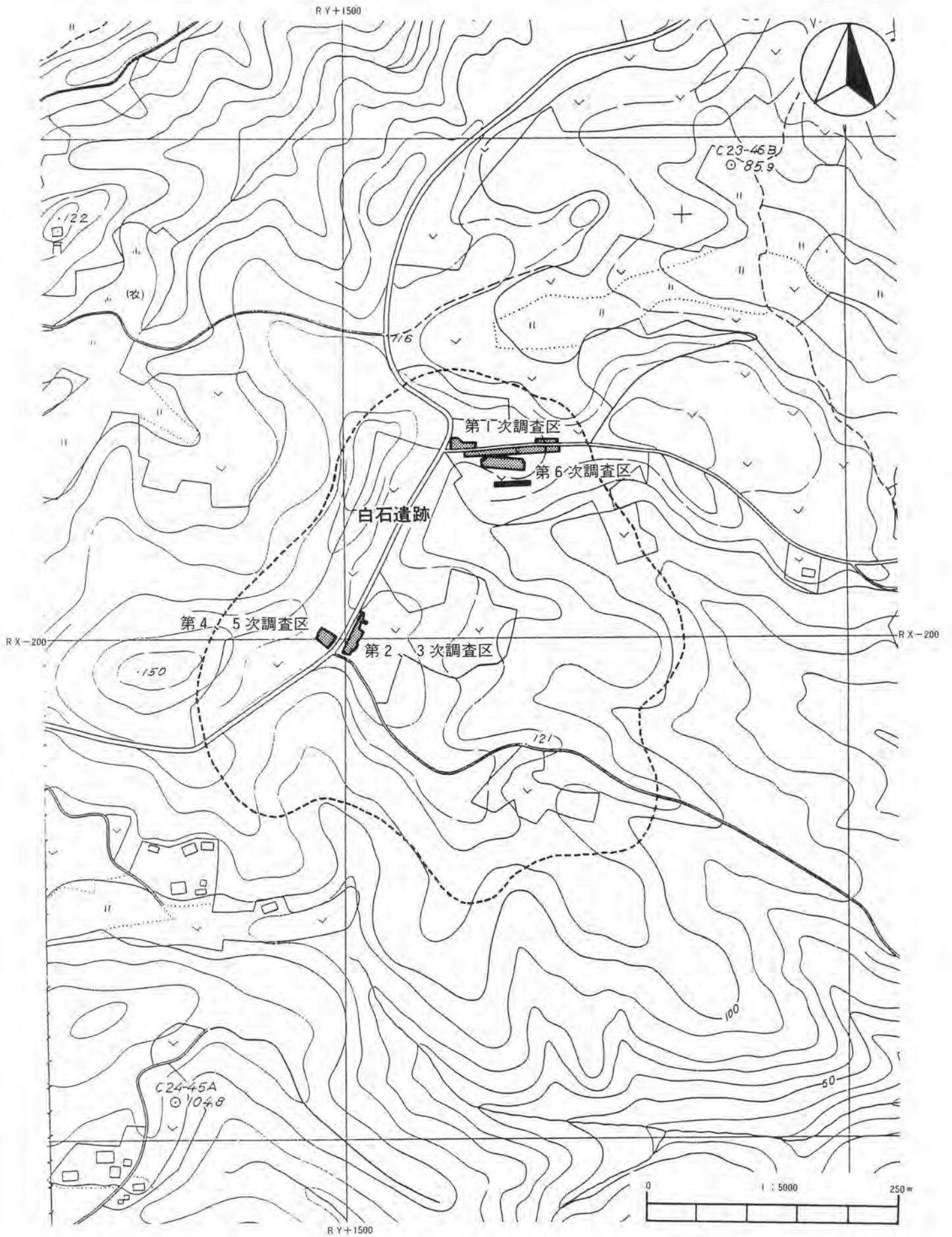
更に、土器型式にして1型式程度の短期間だけしか営まれない遺跡も存在している。



第1図 位置図



第2図 白石遺跡周辺遺跡分布図



第3図 白石遺跡周辺地形図

千束長根遺跡
トロノ木Ⅰ遺跡
トロノ木Ⅲ遺跡
トロノ木Ⅳ遺跡
白石遺跡

例えば、千束長根遺跡・トロノ木Ⅰ遺跡・トロノ木Ⅲ遺跡・トロノ木Ⅳ遺跡などがこれに相当し、比較的小規模な遺跡が多い。

崎山遺跡群内では、この様に規模や存続期間の異なる遺跡が存在しているが、これらが相互に関連を持って縄文社会が形成されていたものと想定される。

さて、白石遺跡については昭和40年代の発掘調査（未報告）以来、昭和61年度から平成2年度にかけて5次にわたる発掘調査が実施されている。これらの調査を総合すると、第1次・第3次～第5次調査区周辺が遺跡の中心部に相当し、東西400m、南北400m程が遺跡の範囲だと想定される。これまでに検出された遺構は、いずれも縄文中期末葉～後期前葉に伴うもので、竪穴住居跡24棟、炉跡3基、柱穴群2基、土坑跡及び墓壇跡67基となっている。

また、昭和40年代の調査では土坑内部に形成された貝層を検出している様である。

Ⅲ 調査の結果

1 調査の状況

第6次調査区は白石遺跡の北東端部に位置し、昭和63年度に実施した第2次調査区の南側に隣接する。第6次調査区付近は市道崎山大付線沿いの標高119m程の平坦面と、これの南側で標高115m程の平坦面がある。ここでは前者をA区、後者をB区と呼ぶ。

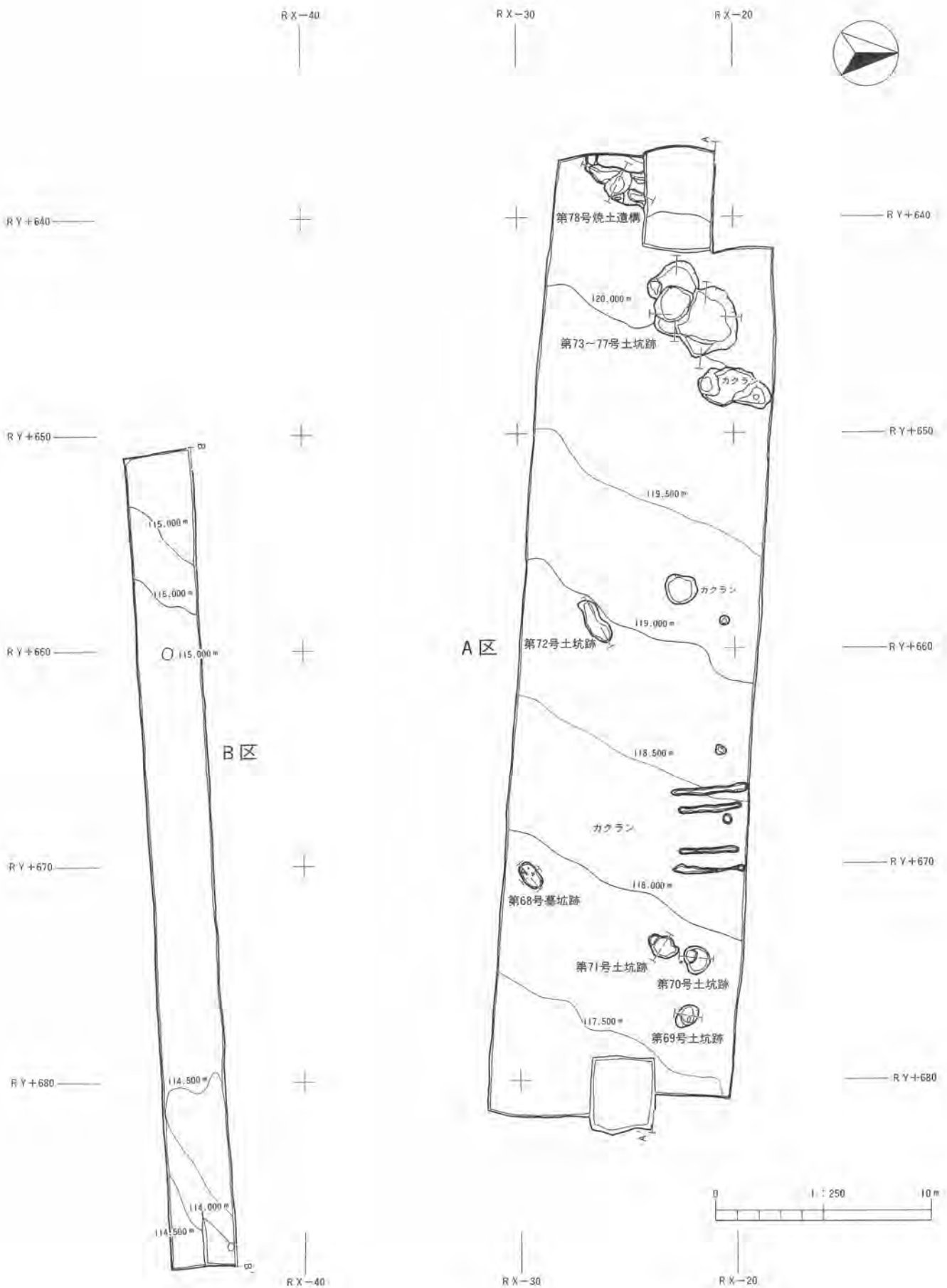
調査区の設定にあたっては、宅地造成工事により破壊される部分のすべてを対象としたが、排土処理の関係や周辺への土砂流出を防ぐために、A区ではトレンチ幅を11mとした。また、B区については幅3mのトレンチを設定したところ、ほぼ全域にわたり、削平を受け基盤岩が露出しており、遺構・遺物が存在しないことを確認したので、これ以上の追加調査は実施しなかった。

第6次調査ではA区から縄文時代の土坑跡等11基を検出したほか、縄文土器・石器・陶磁器類が出土している。

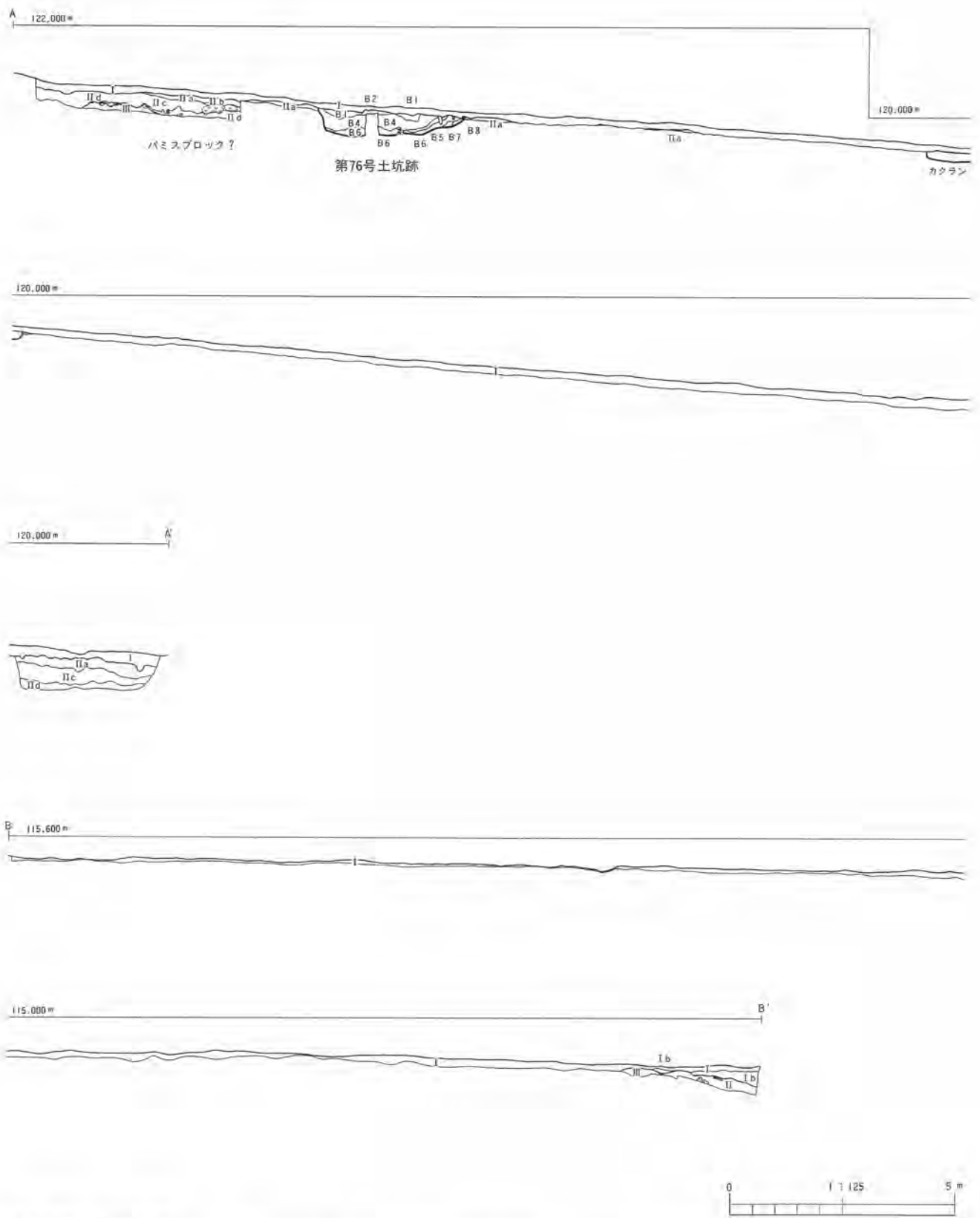
2 基本層序

本調査区内の基本層序は次のとおりである。

- I 層 表土層である。暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊や黒褐色土塊を少量含む。やや柔らかく、しまりが無い。
- II 層 更新世の火山灰を起原とするか、あるいは火山灰そのものと思われ、4層に細分される。
 - II a 層 やや明るい褐色の粘土層である。固く、ややしまっている。
 - II b 層 II a 層よりやや暗い褐色の粘土層である。固く、ややしまっている。
 - II c 層 II a の層に類似する褐色粘土層であるが、粘性の弱い橙色土を多量に含む（風化バミスか?）。固く、ややしまっている。
 - II d 層 II a 層に類似する褐色粘土層で、明褐色（7.5YR 5/6）粘土塊やIII層起原の赤色礫を含む。



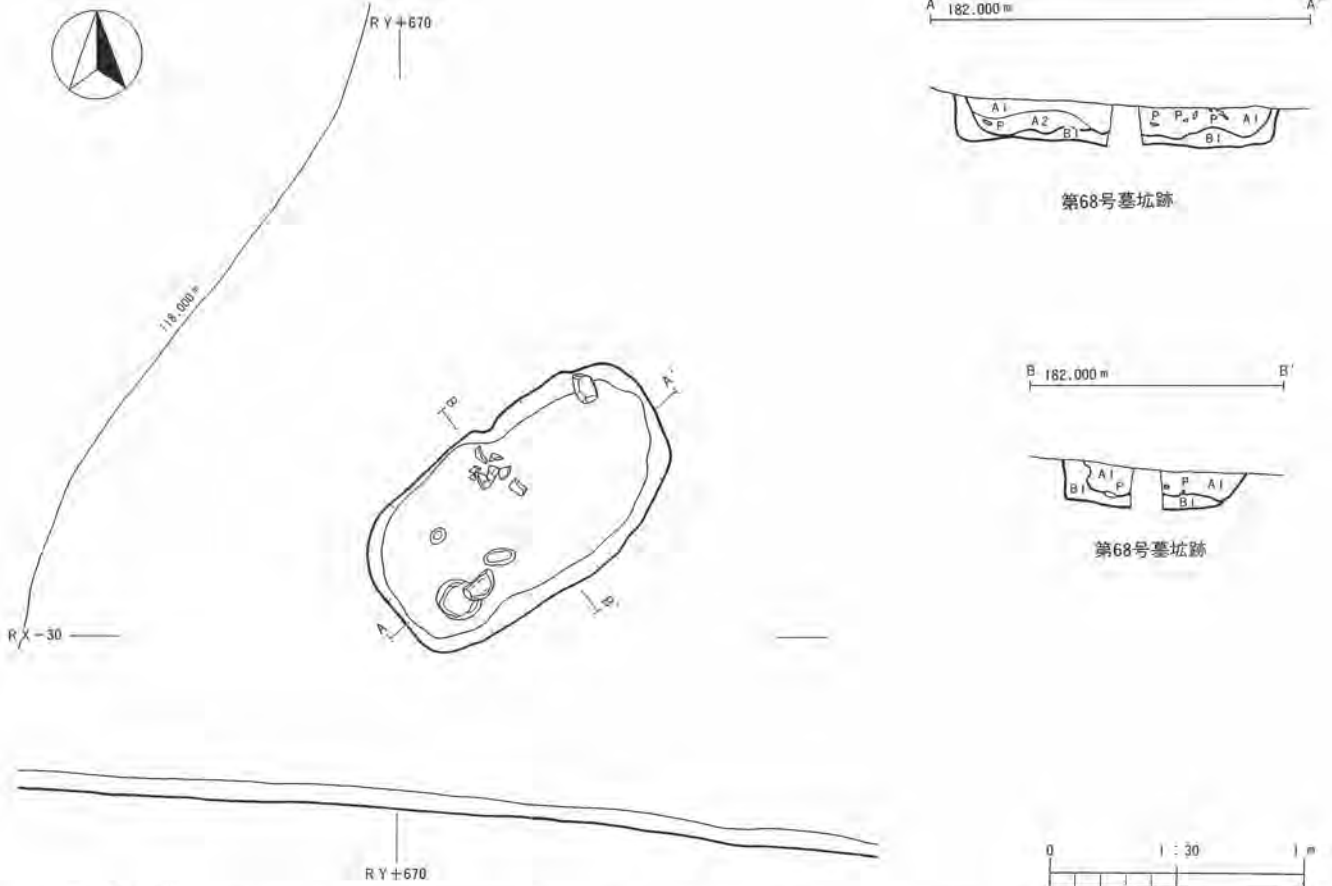
第4図 白石遺跡第6次調査検出遺構配置図



第6次調査区 (A区)基本層序

層名	基本土	混入土	備考
表土 I	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土10%塊状、10YR2/3黒褐色粘質土5%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。
地山 IIa	7.5YR4/6褐色粘質土	7.5YR4/4褐色粘質土5%塊状	固く、やや締る。
地山 IIb	7.5YR4/4褐色粘質土	7.5YR3/4暗褐色粘質土3%塊状	固く、やや締る。炭化物粒少量混入。
地山 IIc	7.5YR4/6褐色シルト質粘土	7.5YR6/6(暗)橙色シルト質土40%塊状	固く、やや締る。
地山 IId	7.5YR4/6(明)褐色粘質土	7.5YR5/6明褐色粘質土15%塊状	固く、やや締る。III層起源の礫混入。
基盤岩 III	(安山岩類主体)	(少量の粘土塊混入)	赤色化(赤色風化殻)

第5図 土層断面図



層名	基本土	混入土	備考
埋土 A1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土15%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土5%塊状	やや柔らかく、締りなし。炭化物粒少量土器片多く混入。
埋土 A2	10YR2/3(明)黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土30%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土15%塊状	やや柔らかく、締りなし。炭化物粒少量、礫多く混入。
埋土 B1	10YR3/4暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土10%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土5%塊状	やや柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。

第6図 第68号墓壇跡

Ⅲ層 花崗岩を主体とする基盤岩で、一部粘土を含む。ほぼ全域にわたり赤色化している（赤色風化殻）。

以上であるが、遺構のすべてはⅡ層上面で検出している。

3 検出した遺構と遺物

(1) 土坑跡等

第68号墓壇跡（第6図）

A区東半部に位置する。平面形は小判形を呈し、規模は長軸1.3m、短軸0.72m、深さ0.16mである。壁はほぼ直上に立上る。主軸方向は埋土はA層・B層に大別される。A₁層は、やや暗い暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊や暗褐色土塊を含むほかに炭化物粒を少量含む。また、土器片を比較的多く含む。A₂層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を多量に含むほかに炭化物粒を少量含む。また、自然礫を多く含む。B₁層は、やや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊などを少量含む。

また、炭化物粒を含むA層よりは少ない。いずれの層も、やや柔らかくしまりが無い。

出土遺物（第11図1～6・第12図44）

1～3は深鉢の口縁部付近破片である。いずれも口縁部文様帯の下端部をわずかに肥厚させ

て、ここに横位の連続刺突文を施す。これらは、胎土、焼成から同一固体である可能性が大きい。4は円形刺突文を施す破片である。5は燃糸文（r）を、6はL-R単節斜縄文を地文とする深鉢破片である。

44は不定形搔器であり、一方の側縁に鈍角の刃部を有する。

また、このほかにA層中より炭化したクルミの殻片が少量出土している。

第69号土坑跡（第7図）

A区東半部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、規模は、開口部径1.2×0.9m、底部径0.7×0.55m、深さ0.55mである。壁は下半部がほぼ直上に立上り、上半部は外傾する。

埋土はA層・B層に大別される。A₁層は、黒褐色粘質土を基本土とし、黒色土塊や暗褐色土塊を含むほかに炭化物粒を微量含む。A₂層は、A₁層より明るい黒褐色粘質土を基本土とし、基本土より暗い黒褐色土塊や暗褐色土塊を含むほかに、少量の炭化物粒と土器片を含む。B₁層は、暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊、やや明るい暗褐色土塊・黒褐色土塊を多く含むほかに炭化物粒を微量含む。いずれの層も、固さ、しまりともに中程度である。

出土遺物（第11図7～15）

7は現存部に縦位の隆起線とこれに直交する横位の刺突文を施す破片である。8は頸部のくびれる深鉢で、縦位の隆起線を施すが、この上面に斜方向の刻目状の施文が認められる。

9・10は隆沈線文を施すものである。いずれもキャリバー形深鉢の口縁部破片であり、横方向の施文が認められる。11～14は平行沈線文を施すものである。11は下位に横位3条の平行沈線文を施し、上位を無文帯とする。12・14は渦巻文等を施すもので、12は大渦巻文を、13は小渦巻文と縦位の区画文を施す。13は小片でありモチーフは不明である。

15は無節斜縄文（ℓ）を縦方向に回転させる深鉢の口縁部破片である。第73号～第75号土坑跡出土土器と接合している。

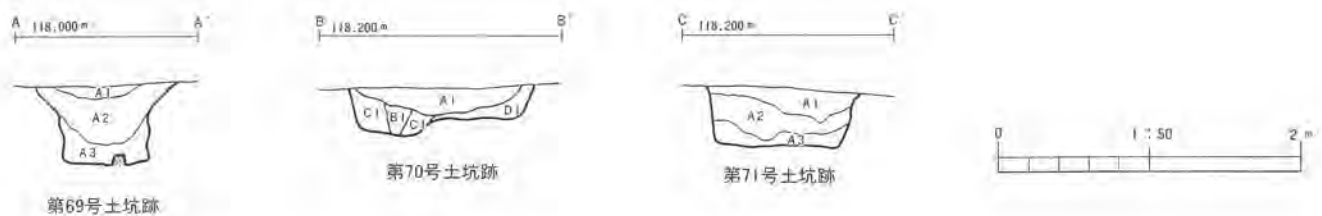
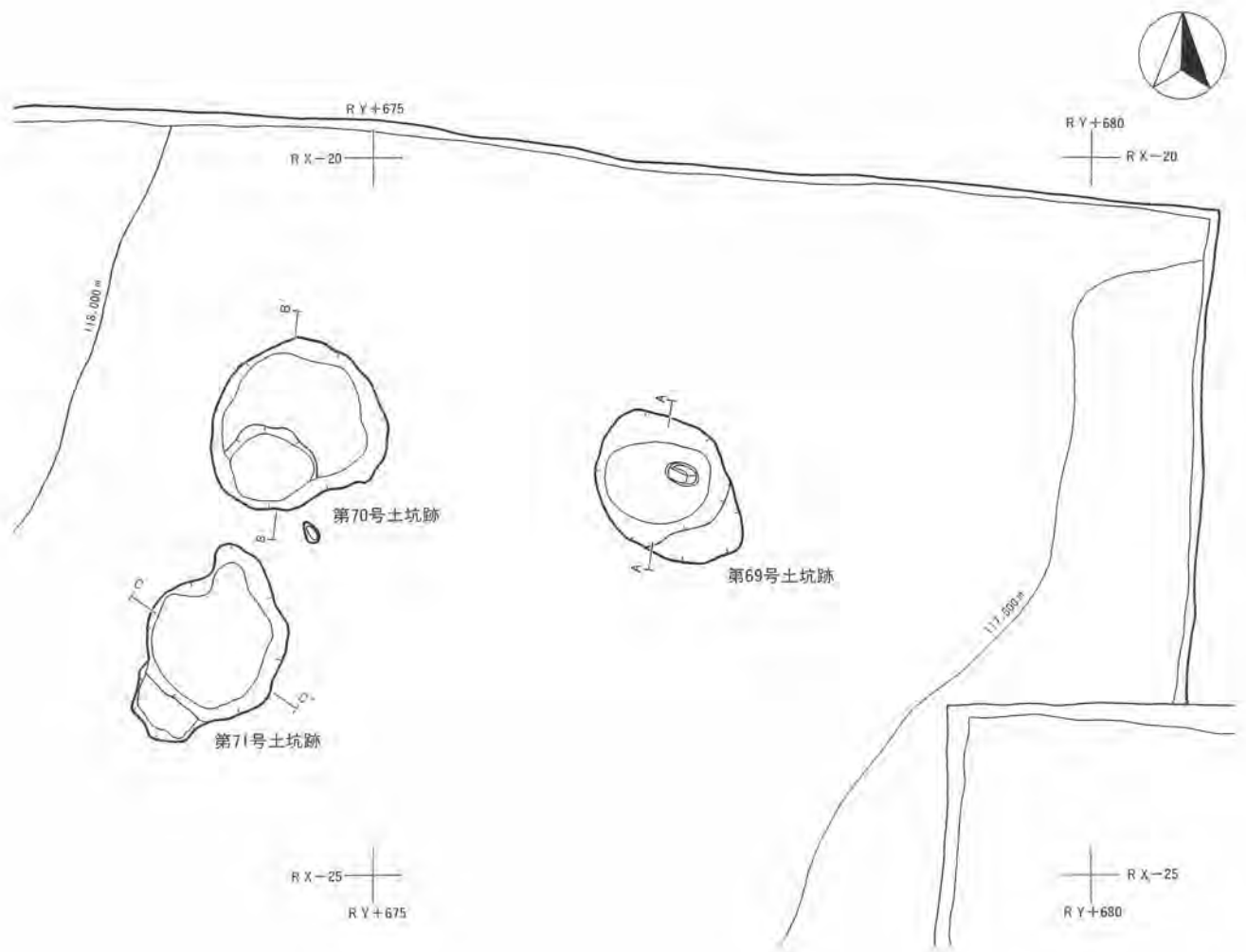
第70号土坑跡（第7図）

A区東半部に位置する。平面形は不整円形を呈し、規模は開口部径1.22m、底部径1.0m、深さ0.2mである。壁はわずかに外傾する。土坑内の南端部には開口部径0.65×0.55m、底部径0.58×0.45m、深さ0.1mの小ピットが伴い。平面形、埋土ともに柱穴状を呈するものの、これに対応するものが見られず、1基だけの検出に留まったため、性格は不明である。

埋土はA層～D層に大別される。A₁層は、やや暗い黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色塊や黒色土塊をやや多く含む。固く、しまりは中程度である。B₁層は、黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊や褐色土塊を多く含む。固さは中程度でややしまりがない。C₁層は、暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色粘質土塊や褐色粘質土塊を含む。やや柔らかくややしまりがない。D₁層は地山に類似した褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を少量含む。やや固く、ややしまっている。A層～C層は微量の炭化物粒を含む。

出土遺物（第11図16～17）

16は口縁部の外反する深鉢の口縁部破片であり、内外面ともに無文である。17はS字状連鎖沈文（?）を施す体部破片である。



第69号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR2/1黒褐色粘質土15%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土5%塊状	固さ、締りともに中程度。炭化物粒微量混入。
埋土 A3	10YR2/3黒褐色粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土20%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土10%塊状	固さ、締りともに中程度。炭化物粒、土器片少量混入。
埋土 B1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土30%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土10%塊状、10YR2/5黒褐色粘質土10%塊状	固さ、締りともに中程度。炭化物粒微量混入。

第70号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A1	10YR2/2(明)黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土20%塊状、10YR2/1黒色粘質土15%塊状	やや固く、締りは中程度。炭化物粒微量混入。
埋土 B1	10YR2/3黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土30%塊状、10YR4/4褐色粘質土10%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 C1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状、10YR4/4褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。

第71号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土20%塊状、10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状、10YR4/4褐色粘質土10%塊状	やや固く、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 A2	10YR2/3黒褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土10%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土5%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 A3	10YR3/4暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土30%塊状、10YR4/6褐色粘質土10%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土5%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒微量混入。

第7図 第69号～第71号土坑跡

第71号土坑跡（第7図）

A区東半部に位置する。平面形は北東部と南西部に不整な張り出しを有する不整円形を呈する。規模は開口部径1.46m×1.0m、底部径1.0×0.8m、深さ0.4mである。壁はわずかに外傾する。

埋土はA層のみで3層に細分される。A₁層は暗褐色粘質土を基本土とし、基本土より明るい暗褐色土塊・黒褐色土塊・褐色土塊を多く含むほかに炭化物粒を少量含む。やや固く、ややしまりがない。A₂層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を少量含むほかに炭化物粒を少量含む。固さは中程度で、ややしまりがない。A₃層はA₁層より明るい暗褐色粘質土を基本土とし、多量の褐色土塊と少量の暗褐色土塊を含むほかに炭化物粒を微量含む。固さは中程度でややしまりがない。

出土遺物（第11図18～21）

19は隆起線上に刻目を有する破片である。18はS字状連鎖沈文を施すもの、20は横位の網目状燃糸文を施すものである。21はL-R単節斜縄文を地文とするもので、胎土に多量の植物繊維を含んでいる。

第72号土坑跡（第8図）

A区中央部に位置する。平面形は不整長楕円形を呈する。規模は開口部径2.25×1.45m、底部径1.95×0.7m、深さ0.15mである。壁は外傾する。

埋土はA層・B層に大別される。A₁層は暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊や基本土より明るい暗褐色土塊を含むほかに炭化物粒を少量含む。B₁層は褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊や基本土より明るい褐色土塊を含むほかにⅢ層起原の赤色礫を少量含む。いずれも固さは中程度でややしまりがない。

出土遺物は無い。

A区西端部付近で第73号～第77号土坑跡を検出した。検出時には2基の大形の遺構の重複と判断して精査を開始したが、精査途中で5基の土坑跡の重複であることが判明した。このため遺物の取上げの際に第73号～第75号土坑跡遺物を一括している。

土坑間の重複関係は次のとおりとなる。

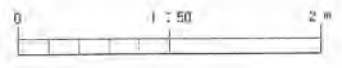
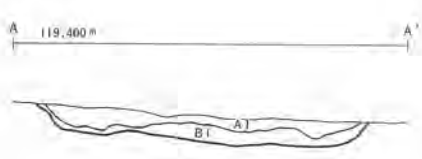
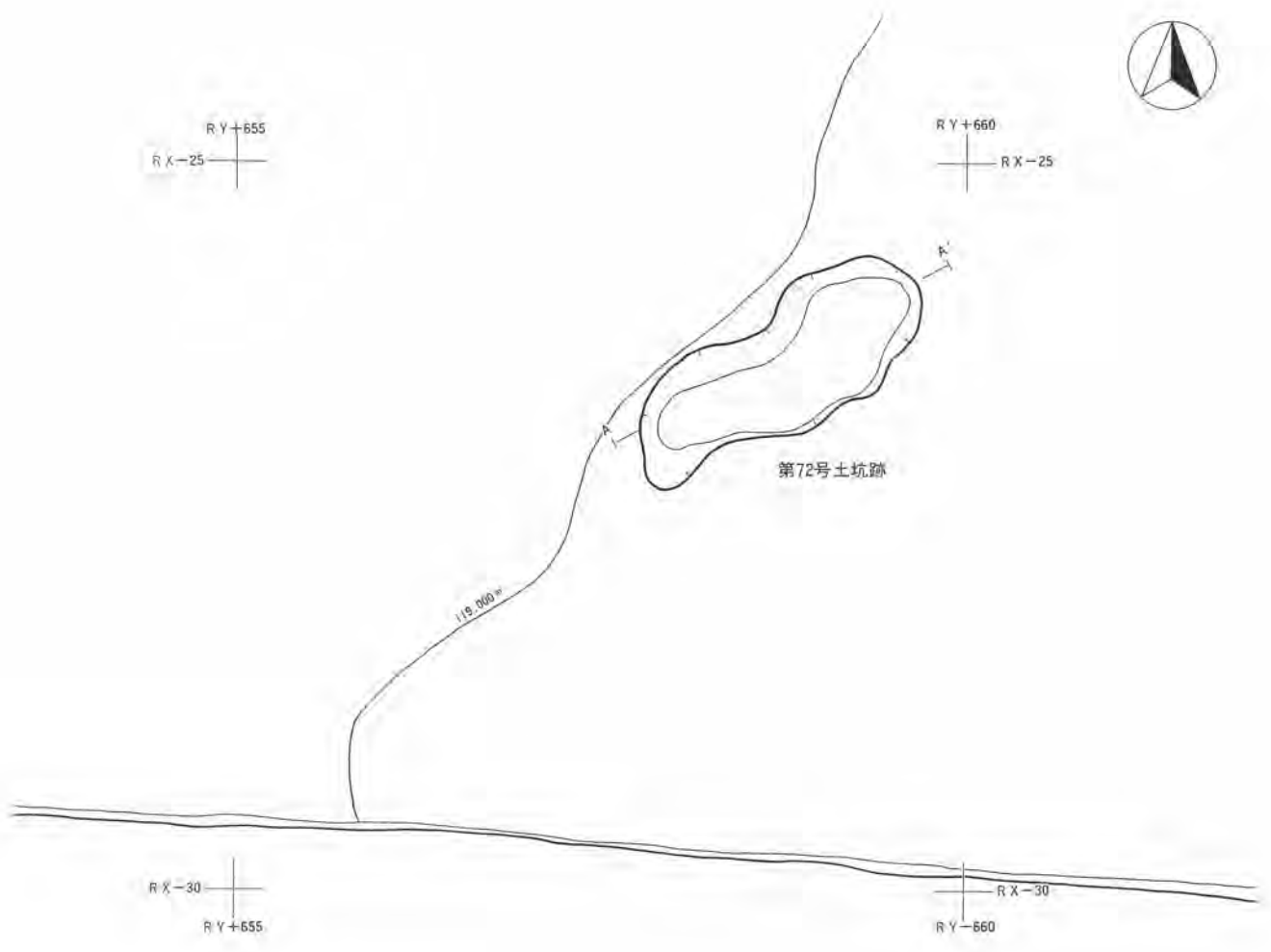


以下、各土坑毎の概要を記述する。

第73号土坑跡（第9図）

土坑群の南西部に位置する。平面形は不整円形を呈し、規模は開口部径1.65m、底部径0.9m、深さ0.5mである。壁はほぼ直上に立上るが、一部東壁でかなりゆるやかに立上る。

埋土はA層・B層・C層に大別される。A層はおおむね凸レンズ状に堆積し、3層に細分される。A₁層は黒褐色粘質土を基本土とし、基本土より明るい黒褐色土塊を少量含むほかに炭化物粒を少量含む。A₂層はA₁層より暗い黒褐色粘質土を基本土とし、基本土より明るい黒褐



第72号土坑跡

第72号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土10%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 B 1	10YR4/4褐色粘質土	10YR3/4褐色粘質土20%塊状、10YR4/6褐色粘質土7%塊状	固さは中程度、やや締りなし。赤色塵少量混入。

第8図 第72号土坑跡

色土塊や暗褐色土塊を含むほかに炭化物粒を微量含む。A₁層はA₂層と同様の黒褐色粘質土とし、多量の暗褐色土塊と少量の褐色土塊を含むほかに微量の炭化物粒を含む。いずれもやや柔らかくややしまりが無い。B₁層は壁際に堆積し、暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊・褐色土塊・黒色土塊などを多量に含むほかに炭化物を微量含む。柔らかくややしまりが無い。C層は底面に平行に堆積し、2層に細分される。C₁層は黒褐色粘質土を基本土とし、黒色土塊・暗褐色土塊・褐色土塊を多く含むほかに炭化物粒を少量含む。柔らかくしまりが無い。C₂層は褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊や黒褐色土塊をやや多く含むほかに炭化物粒を少量含む。やや柔らかくしまりが無い。

第73号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR2/3黒褐色粘質土10%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土5%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 A 2	10YR2/2(暗)黒褐色粘質土	10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 A 3	10YR2/2(明)黒褐色粘質土	10YR3/3(暗)暗褐色粘質土30%塊状、10YR4/4褐色粘質土3%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 1	10YR3/4暗褐色粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土20%塊状、10YR4/4褐色粘質土20%塊状、10YR2/1黒色粘質土5%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土5%塊状	柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 C 1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR2/1黒褐色粘質土25%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土15%塊状、10YR4/4褐色粘質土10%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 C 2	10YR4/4褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土15%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土15%塊状	やや柔らかく、締りなし。炭化物粒少量混入。

第74号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	7.5YR4/6褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土15%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土10%塊状	固さ、締りともに中程度。
埋土 A 2	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土30%塊上、10YR4/4褐色粘質土10%塊状、10YR4/6褐色粘質土5%塊状、10YR2/1黒色土5%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 A 3	7.5YR4/6褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土5%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土5%塊状	固さ、締りともに中程度。炭化物粒微量混入。
埋土 A 4	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR2/1黒褐色粘質土30%塊状、10YR2/3黒褐色粘質土10%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 A 5	10YR4/4褐色粘質土	10YR4/6褐色粘質土20%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土7%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土5%塊状	固さ中程度、締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 A 6	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土20%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土10%塊状、10YR4/4褐色粘質土10%塊状、10YR2/1黒色粘質土7%塊状	柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 A 7	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土30%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土15%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土5%塊状	柔らかく、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 A 8	10YR4/6褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土15%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土15%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒少量混入。

第75号土坑跡

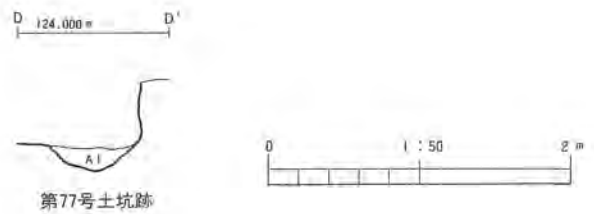
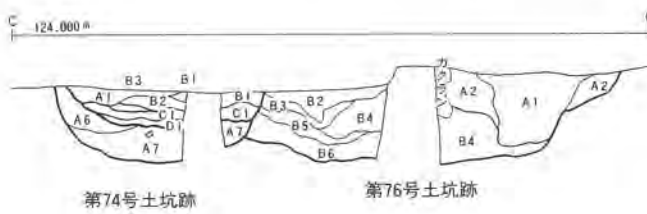
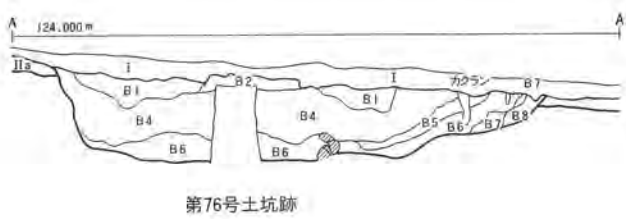
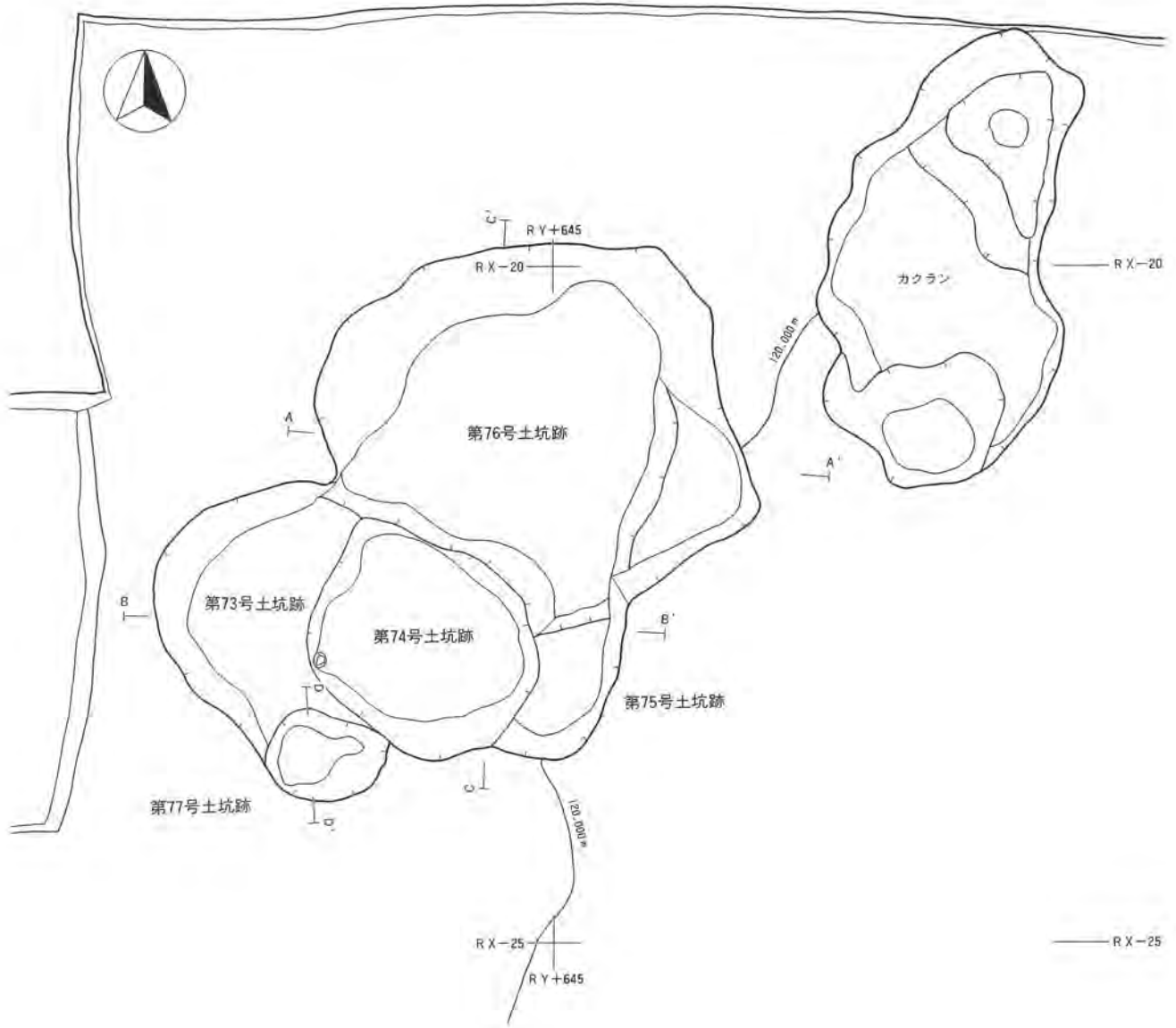
層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土10%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土5%塊状、10YR2/1黒色粘質土5%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 1	10YR3/4暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土15%粒状、10YR3/3暗褐色粘質土10%粒状、10YR2/3黒褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 2	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土20%粒状、10YR4/4褐色粘質土10%粒状、10YR2/3黒褐色粘質土7%粒状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 B 3	10YR3/4暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土30%塊状、10YR2/3黒褐色粘質土15%粒状、10YR3/3暗褐色粘質土5%粒状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 C 1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土15%塊状、10YR2/1黒色粘質土10%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 D 1	10YR3/4暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土30%塊状、10YR4/6褐色粘質土15%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土5%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。

第76号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR2/1黒色粘質土30%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 A 2	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR4/4褐色粘質土20%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土5%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土20%塊状、10YR4/4褐色粘質土15%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土10%塊状	やや固く、締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 2	7.5YR4/4褐色粘質土	7.5YR4/6褐色粘質土15%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土15%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒微量混入。礫。
埋土 B 3	10YR3/3暗褐色粘質土	7.5YR4/4褐色粘質土20%塊状、10YR4/6褐色粘質土10%塊状、10YR2/2黒褐色粘質土5%塊状	やや柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。礫少。
埋土 B 4	7.5YR4/4褐色粘質土	7.5YR4/6褐色粘質土20%塊状	柔らかく、締りなし。赤色礫混入。
埋土 B 5	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土30%塊状、10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状、10YR4/4褐色粘質土5%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 B 6	7.5YR4/4褐色粘質土	7.5YR4/6褐色粘質土15%塊状	やや柔らかく、締りなし。赤色礫多量混入。
埋土 B 7	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR2/3黒褐色粘質土30%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土15%塊状、10YR4/4褐色粘質土5%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 8	7.5YR4/4褐色粘質土	7.5YR4/6褐色粘質土10%塊状、10YR3/4暗褐色粘質土5%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。

第77号土坑跡

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	10YR2/2黒褐色粘質土	10YR3/3暗褐色粘質土20%塊状、10YR4/4褐色粘質土15%塊状、10YR2/1黒色粘質土15%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒微量混入。



第9図 第73号～第77号土坑跡

第74号土坑跡（第9図）

土坑群の南中央部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、規模は開口部径1.6×1.25m底部径1.3×1.05m、深さ0.45mである。壁は内湾気味に立上る。埋土はA層のみで、7層に細分される。A₁層・A₂層・A₃層・A₄層は褐色粘質土を基本土とし、A₅層でやや混入土が少ないものの他の層は暗褐色土塊などの混入土をやや多く含む。A₆層がやや柔らかくややしまりがないほかに固さしまりともに中程度であるが、A₇層はしまりがない。

A₆層・A₇層は黒褐色粘質土を基本土とし、黒色土塊・暗褐色土塊・褐色土塊などを多く含む。A₇層が柔らかいほかはやや柔らかくややしまりがない。A₆層は南壁付近にのみ堆積し、暗褐色粘質土を基本土とし、基本土より明るい暗褐色土塊・黒褐色土塊・褐色土塊・黒色土塊を多く含む。柔らかくしまりがない。

いずれの層も少量～微量の炭化物粒を含む。

第75号土坑跡（第9図）

土坑群の南東部に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、規模は開口部径1.8×1.3m、底部径1.4×0.95m、深さ0.3mである。壁はゆるやかに外傾するが、南壁の一部で強く外傾する。

埋土はA層～D層に大別される。A₁層は黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊や黒色土塊を少量含むほかに炭化物を微量含む。柔らかくしまりがない。B層は3層に細分される。B₁層・B₂層はやや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊～粒・暗褐色土粒・黒褐色土塊～粒を多く含む。B₁層はやや柔らかく、B₂層は固さは中程度で、いずれもややしまりがない。B₃層はやや暗い暗褐色粘質土を基本土とし、基本土より明るい暗褐色土粒・褐色土粒・黒褐色土粒をやや多く含む。固さは中程度でややしまりがない。いずれの層も少量～微量の炭化物粒を含む。C₁層は黒褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊・暗褐色土塊・黒色土塊をやや多く含むほかに少量の炭化物粒を含む。やや柔らかくややしまりがない。D₁層はやや明るい暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊・黒褐色土塊を多く含むほかに炭化物粒を微量含む。やや柔らかくややしまりがない。

第73号～第75号土坑跡出土遺物（第11図15・22～28・30・42）

22は口縁部がわずかに外反する深鉢である。口縁部を無文帯とし、体部を隆沈線により施文する。23は縦位の隆沈線文を施すものであるが隆起線が剥離している。26は平行沈線文を施すものである。他はいずれも地文のみを施すもので、24が燃糸文(r)を、25が櫛目文を、27・28がR-L単節斜縄文を、30がR-L-R複節斜縄文を施す。

42は扁平円盤を用いた碟器である。一方の面を打面とし、粗い剥離により調整される。

第76号土坑跡（第9図）

土坑群の北半部に位置する。平面形は東側に張り出しを有する不整楕円形を呈し、規模は現存部で開口部径3.25×2.4m、底部径2.1×2.0m、深さ0.5mである。

埋土はA層とB層に大別される。A層は北壁寄りにのみ堆積し、2層に細分される。A₁は黒褐色粘質土を基本土とし、黒色土塊や暗褐色土塊を多く含む。やや柔らかくややしまりがな

い。A₃層は暗褐色粘質土を基本土とし、褐色土塊や黒褐色土塊を含む。柔らかくしまりが
ない。いずれも炭化物粒を微量含む。B層は8層に細分される。B₁層・B₂層・B₃層は暗褐色
粘質土を基本土とし、褐色土塊・黒褐色土塊などを多く含むほかに炭化物粒を少量～微量含む。
B₁層が固いほかは柔らかく、いずれもしまりがない。B₇層は黒褐色粘質土を基本土とし、や
や暗い黒褐色土塊・暗褐色土塊・褐色土塊を多く含むほかに炭化物粒を微量含む。柔らかくし
まりがない。B₂層・B₄層・B₆層・B₈層は褐色粘質土を基本土とし、基本土より明るい褐色
土塊や暗褐色土塊を含むほかにB₂層は炭化物粒を微量含む。B₆層が固さは中程度で他はおお
むねやや柔らかく、しまりがない。

また、B₂層～B₄層・B₆層にⅢ層起原の赤色礫を少量含む。

出土遺物（第11図29）

29はL-R単節斜縄文を施す破片である。

第77号土坑跡（第9図）

土坑群の南端部に位置する。第73号土坑跡の底面に検出したもので、第73号土坑跡に切られ
る。平面形は不整楕円形を呈し、規模は開口部径0.95×0.67m、底部径0.6×0.43m、深さ0.15
mである。

埋土はA₁層のみで、黒褐色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊・褐色土塊・黒色土塊を多く
含むほかに炭化物粒を微量含む。柔らかくしまりがない。

出土遺物はない。

第78号焼土遺構（第10図）

A区西端部に位置する。重機による粗掘りの際に北端部を破壊してしまい、また、南西部が
調査区外に延びるために全体の形状は不明であるが平面形は南西から北東方向に延びる不整な
溝状を呈し、規模は開口部の最大幅1.85m、規存長3.6m、深さ0.45mである。

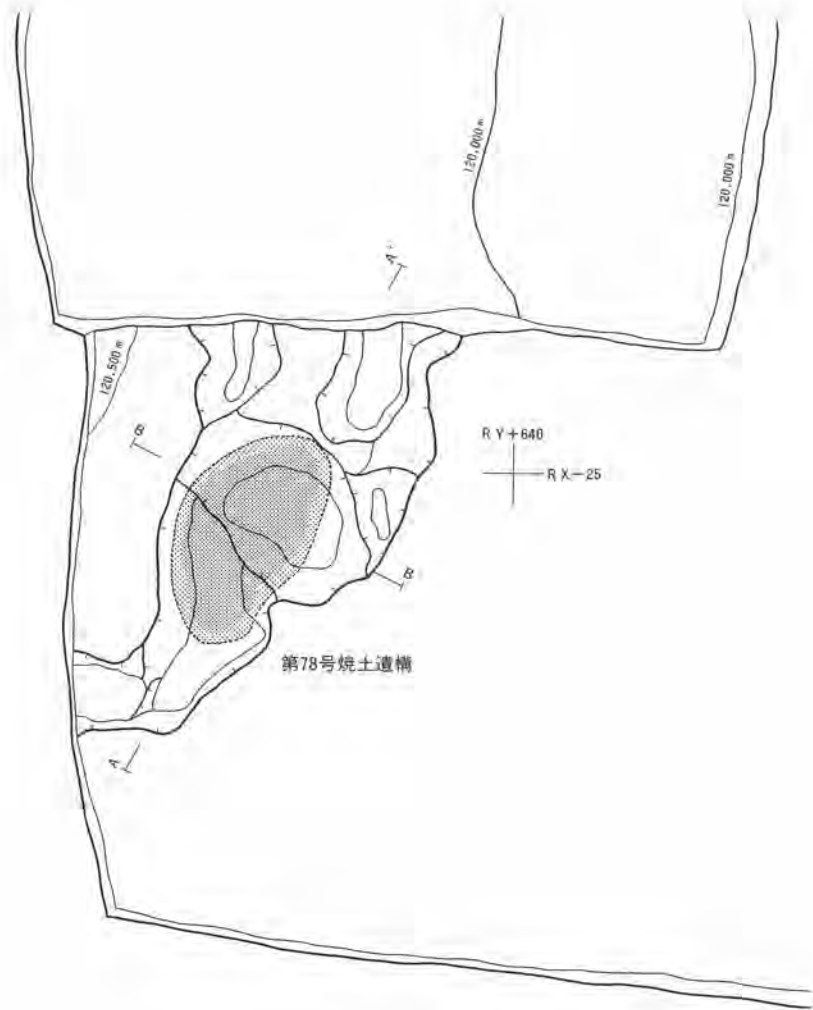
埋土はA層・B層・C層に大別される。A₁層は焼土層で、赤褐色粘質土を基本土とし、暗
赤褐色土塊や基本土より明るい赤褐色土塊を多く含む。やや柔らかくややしまりがないものの
現地性の焼土層だと思われる。A₂層は焼土の浸透層で、極暗赤褐色粘質土を基本土とし、黒
褐色土塊や暗赤褐色土塊を多く含む。やや柔らかくややしまりがない。いずれの層も炭化物粒
を微量混入する。B層は2層に細分される。B₁層は黒色土を基本土とし、黒褐色土塊を多く
含む。柔らかくしまりがない。B₂層はやや暗い暗褐色粘質土を基本土とし、黒褐色土塊や黒
色土塊を含むほかに微量の炭化物粒を含む。固さは中程度でややしまりがない。C₁層は黒褐
色粘質土を基本土とし、暗褐色土塊を多く含むほかに微量の炭化物粒を含む。固さは中程度で
ややしまりがない。

出土遺物（第11図31～34）

31は口縁部の外反する深鉢で口唇部が外側へ突出している。器面にはL-R単節斜縄文を横方
向に施す。胎土に植物繊維を含む。32は撚糸文(ℓ)を、33・34はL-R単節斜縄文を地文とする
もので、いずれも胎土に植物繊維を含まない。

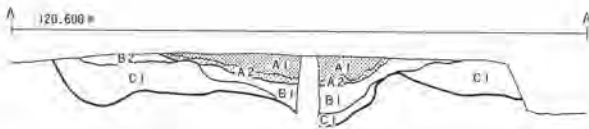
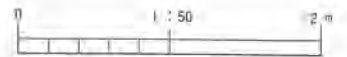


R Y + 635
R X - 25

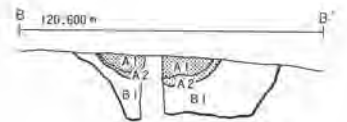


R X - 30
R Y + 635

R X - 30
R Y + 640



第78号烧土遺構



第78号烧土遺構

第78号烧土遺構

層名	基本土	混入土	備考
埋土 A 1	5YR4/6暗赤褐色粘質土	5YR3/4暗赤褐色粘質土30%塊状、5YR4/8赤褐色粘質土10%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 A 2	5YR2/4極暗赤褐色粘質土	5YR2/2黒褐色粘質土30%塊状、5YR3/3暗赤褐色粘質土7%塊状	やや柔らかく、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 B 1	10YR2/1黒色粘質土	10YR2/2黒褐色粘質土30%塊状、10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状	柔らかく、締りなし。炭化物粒少量混入。
埋土 B 2	10YR2/2(暗)暗褐色粘質土	10YR2/3黒褐色粘質土15%塊状、10YR2/1黒色粘質土5%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒微量混入。
埋土 C 1	10YR3/3暗褐色粘質土	10YR3/4暗褐色粘質土20%塊状、10YR3/3暗褐色粘質土15%塊状	固さは中程度、やや締りなし。炭化物粒微量混入。

第10図 第78号烧土遺構

(2) 遺構外出土遺物（第11図35～41・第12図43・45～49）

○縄文土器

35は横位2条の隆起線上に縄文を施すものである。他のものはいずれも地文のみであり、36は撚糸文(ℓ)を、37はR-L単節斜縄文を、38・39はL-R単節斜縄文を施す。40・41は結束しない羽状縄文を地文とするもので、いずれも胎土に植物繊維を含む。

○石器

43・46は不定形の剥片石器で、43は両側縁に、46は一方の側縁に搔器様の刃部が認められる。45は使用痕のある剥片で、一方の側縁に使用時のものと思われる剥離が認められる。

○磁器

47はそば猪口で外面に染付により山水文(?)を施し、口唇部に口紅が認められる。48は丸型湯飲み碗で外面に丸文と、この間を充填する格子目文を施す。また、内面の口縁下に横位2条の条線文を施す。49も丸型湯飲み碗で外面の口縁部に横位1条の条線と体部に菊花文を施す。また、内面の口縁下に横位2条の条線文を施す。

Ⅳ 調査のまとめ

第6次調査にて検出した遺構と遺物の概要は既に述べたとおりであるが、ここではこれらに若干の検討を加えることとする。

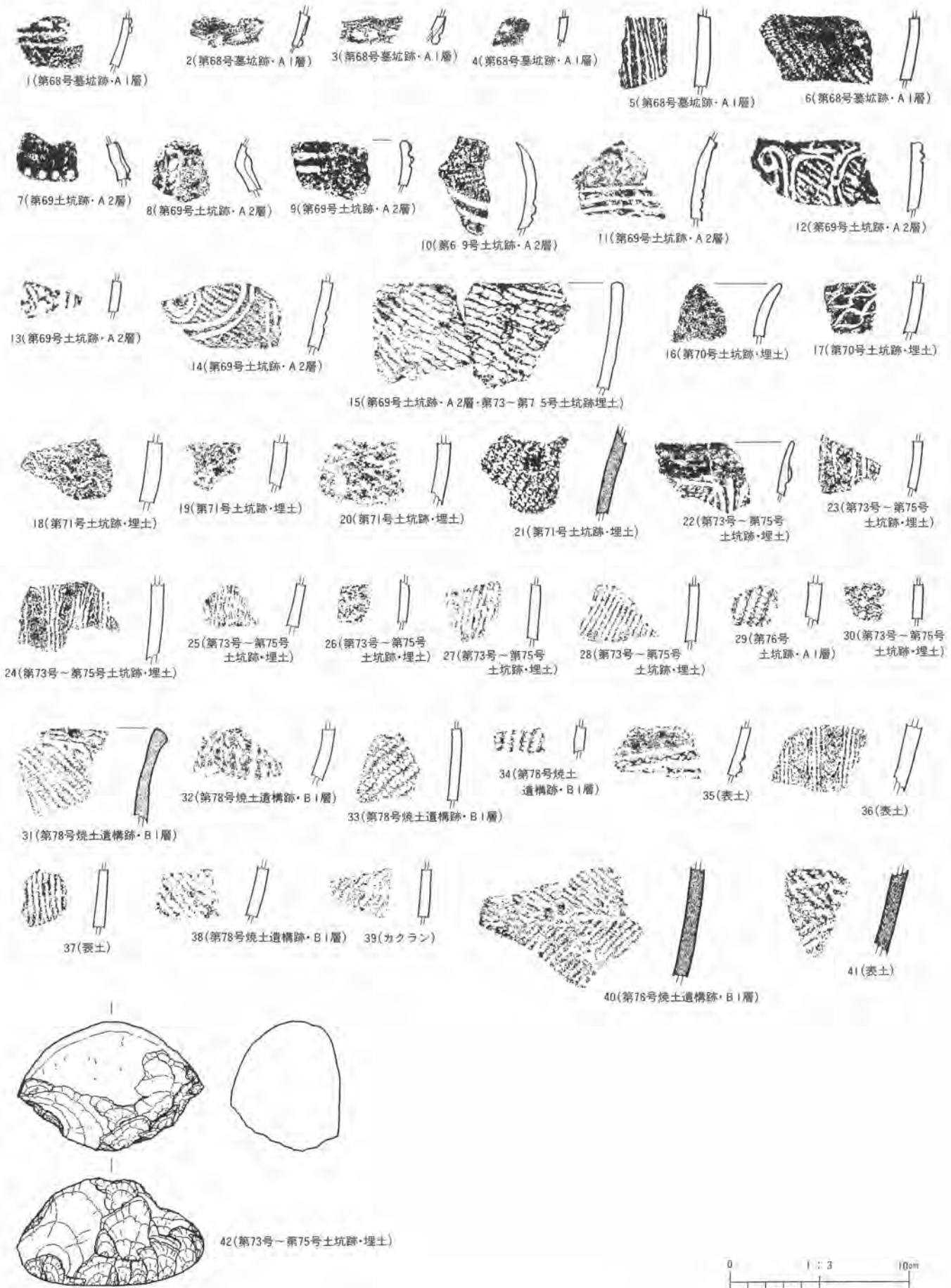
まず、今回の調査で検出した遺構は墓壇跡1基・土坑跡9基・焼土遺構1基の計11基である。このうち、第68号墓壇跡については、平面形や規模から墓壇である可能性が大きいと判断した。本墓壇跡の伴出土器のうち第11図1～4は、大木10式～後期初頭に伴うものであり、本墓壇跡の所属時期を示すものと思われる。また、本遺跡内での類例としては第2次調査にて検出した第4号土坑跡（大木10式期）を上げることができる。第4号土坑跡は平面形が類似するものの掘り込みがやや深く、埋土中に大き目の礫を伴う点で差異が認められる。いずれにしろ、両遺構ともに人骨が伴わない点や両者間の平面位置があまりにも離れていることなどから、本遺構内での墓域のあり方に言及するには情報不足だと言える。今後資料の蓄積を待つて再度検討を加えることとした。

第69号・第71号土坑跡は形態がやや不整ではあるが、貯蔵穴に相当するものと思われる。第69号土坑跡の伴出土器のうち第11図7・8は大木10式～後期初頭に伴うものである。また、第71号土坑跡の伴出土器（第11図18～21）は、胎土に植物繊維を含むものやS字状連鎖沈文を施すものなどで、おおむね大木2b式前後に伴うものと思われる。これらは、それぞれの土坑跡の所属時期を示すものと思われる。

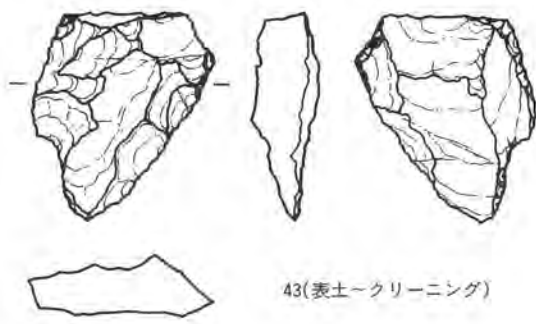
第70号土坑跡は形態や埋土状況より柱穴の可能性も考えられたが、1基のみの検出であり性格は不明である。伴出遺物のうち第11図16は無文の深鉢口縁部破片であり、胎土や焼成からおおむね縄文時代中期以降に伴うものかと思われる。

第72号土坑跡は伴出遺物も無く、所属時期・性格ともに不明である。

第73号～第77号土坑跡は、同一地点にて繰返し土坑跡が掘られた状況を呈している。いずれも形態や規模が一様でなく、性格は不明である。ただし、これらの土坑群の多くは埋土中に混



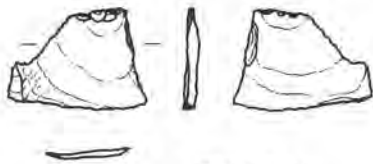
第11図 白石遺跡第6次調査区出土遺物(1)



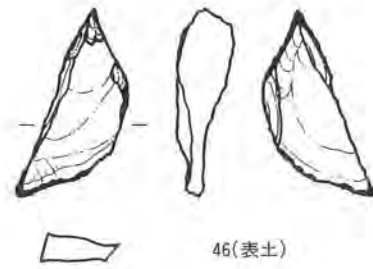
43(表土-クリーニング)



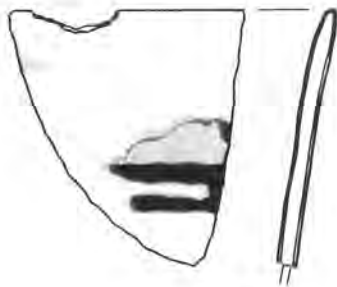
44(第68号墓塚跡・A1層)



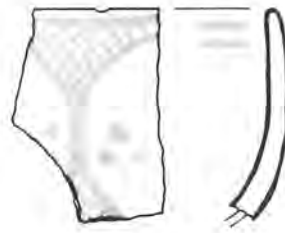
45(カクラン)



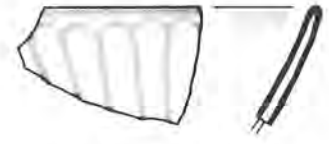
46(表土)



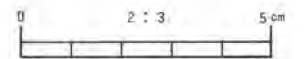
47(表土)



48(表土)



49(表土)



第12図 白石遺跡第6次調査区出土遺物(2)

入土を多く含み、また、明るい土層と暗い土層が互層になるものもある点などから人為的堆積の可能性が考えられる。伴出遺物については、第11図22・23が大木8 b式に伴うものであるが、第69号土坑跡出土土器との接合関係より大木10式～後期初頭に伴う可能性が大きいと言える。

第78号焼土遺構は、平面形、壁や底面の状況から人為的な遺構かどうかは疑問が有る。おそらくは雨裂などの自然の凹地がほぼ埋没しきった段階の最上面で焼成を受けたものと思われる。伴出遺物（第11図31～34）からは縄文時代前期以降に伴うものと思われる。

次に出土土器については、前述したのものも含めて次のとおり分類する。

第1群（第11図17～21・31・40・41）

前期前葉に伴うと思われるものを一括した。31・40・41は胎土に植物繊維を含み、羽状縄文や単節斜縄文等を施すもので、おおむね大木1式～大木2 a式に伴うものであろう。17・18・20は胎土に植物繊維を含まずS字状連鎖沈文等を施すもので大木2 b式に伴うものと思われる。

第2群（第11図9～14・22・23）

中期中葉の大木8 b式に伴うと思われるものを一括した。隆沈線や平行沈線により渦巻文等を施すものが主体となるが、12のように大木9式に類似するモチーフを有するものも認められる。

第3群（第11図1～4・7・8・35）

大木10式～後期初頭に伴うと思われるものを一括した。モチーフの判明する破片が無いためにどの型式に伴うものかは不明である。

第4群（第12図47～49）

近世に伴う陶磁器類を一括した。いずれも表土層から出土したもので層位的まとまりを持たないものであるが、おおむね18世紀後半以降に伴うものと思われる。

最後に石器については、出土点数が少なくしかも不定形石器が主体となり多くを語ることはできないが第11図42の礫器は崎山貝塚の検出例（『崎山遺跡群Ⅰ』）などにより前期に伴うものである可能性が大きいと思われる。

写 真 图 版



白石遺跡第6次調査区遠景（東より）



白石遺跡第6次調査A区全景（西より）

第2図版



白石遺跡第6次調査A区全景（東より）



白石遺跡第6次調査A区土層堆積状況

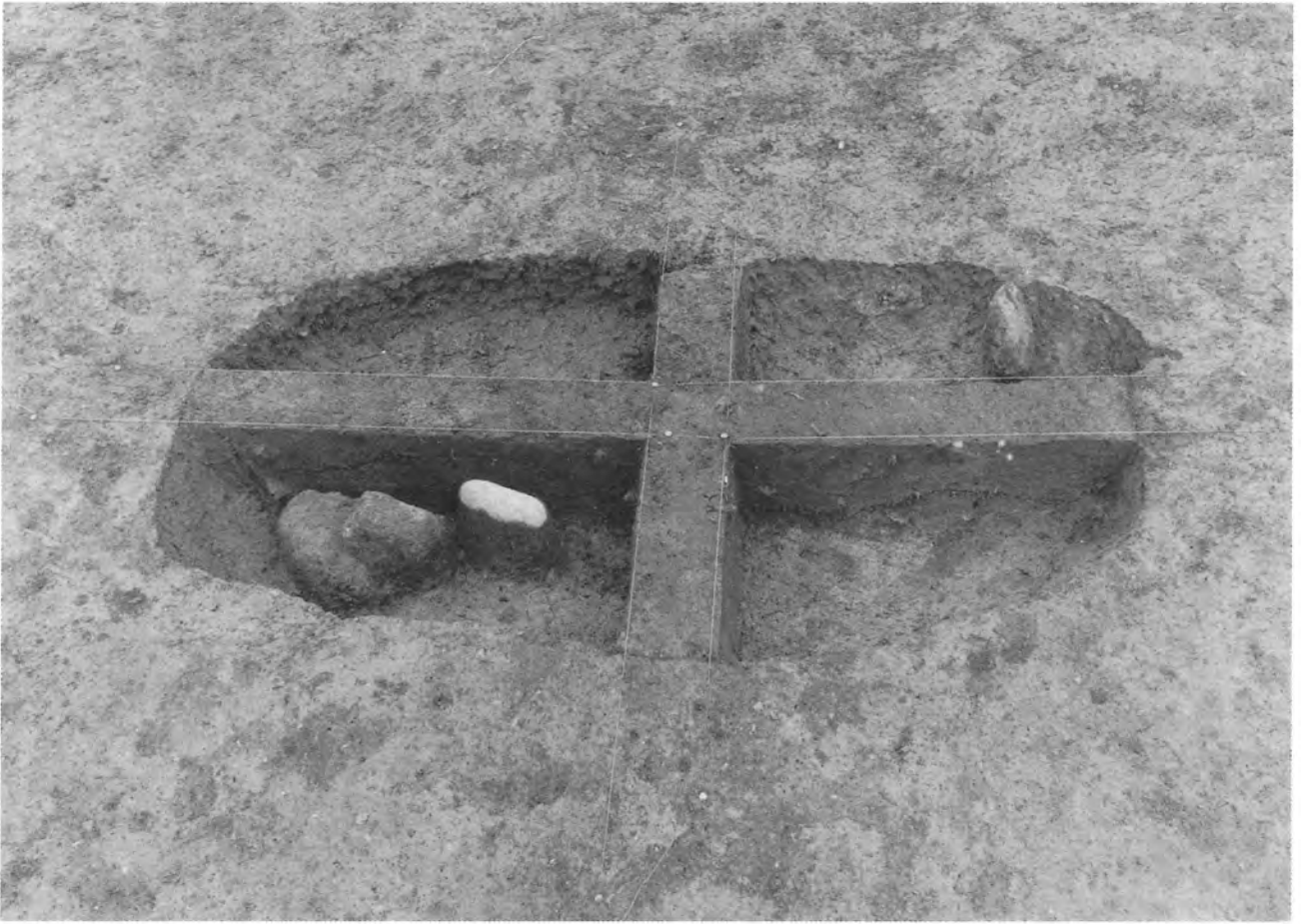


第68号墓壙跡完掘状況



同遺物出土状況

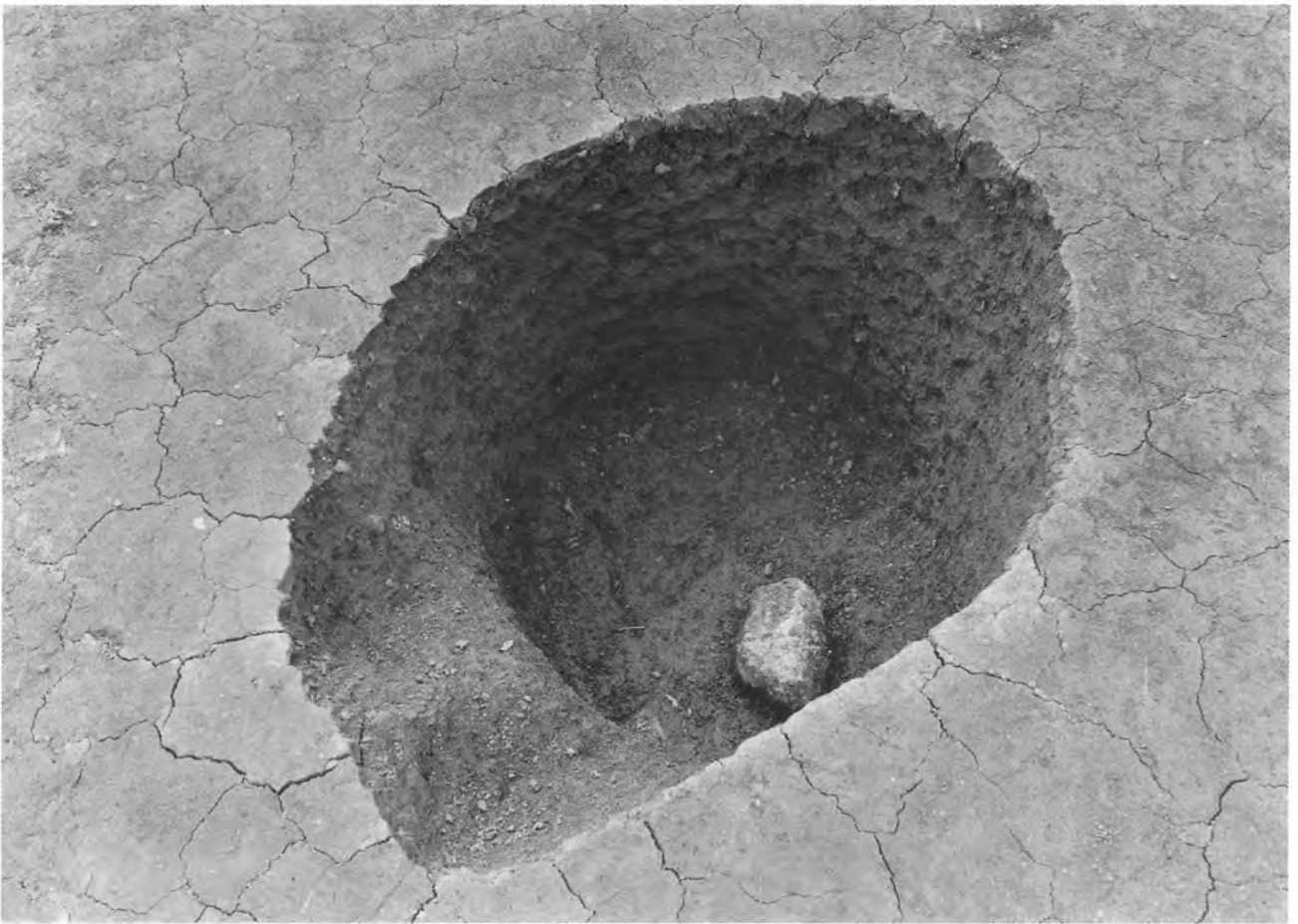
第4図版



第68号墓塚跡土層堆積状況



第69号～第71号土坑跡

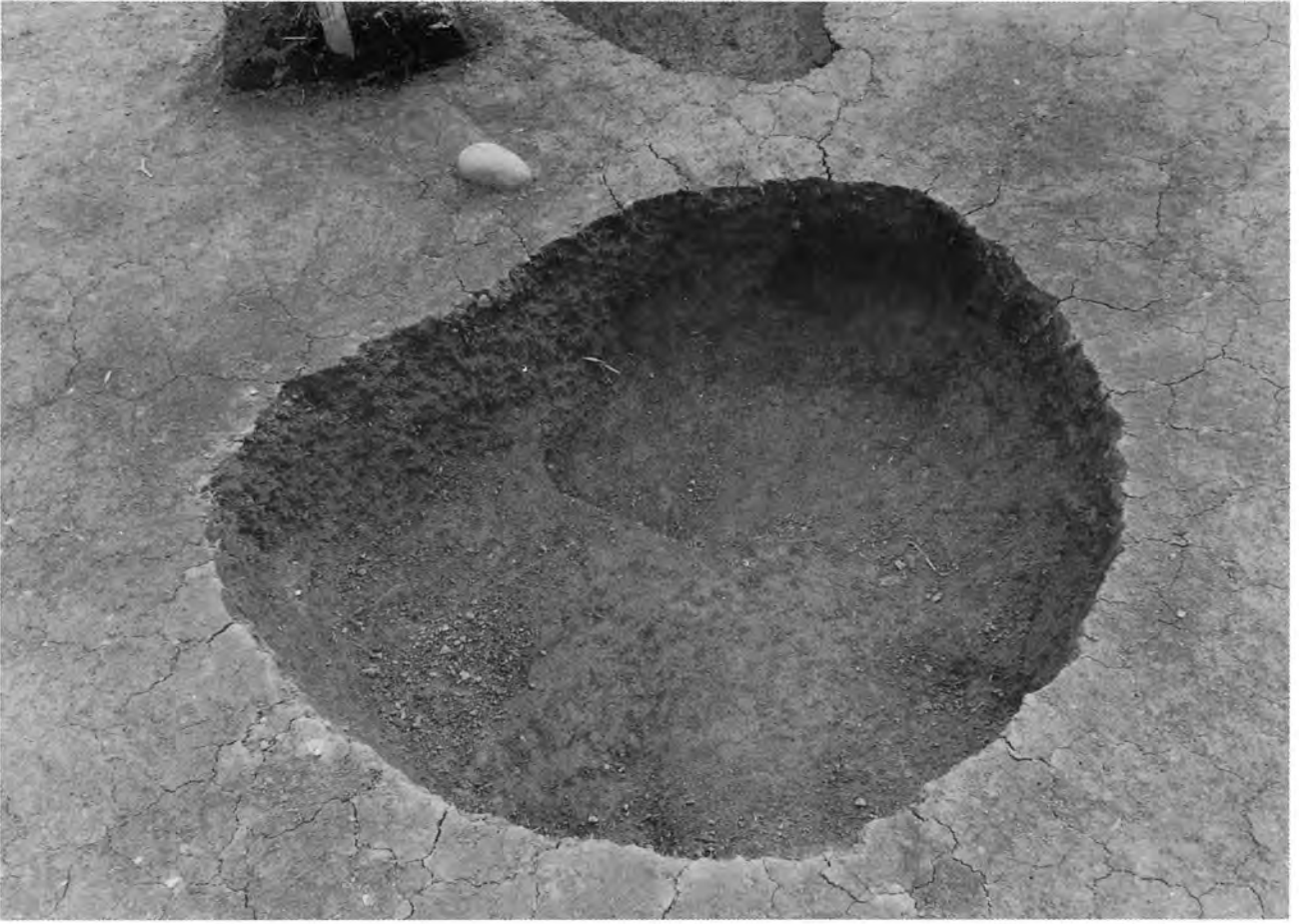


第69号土坑跡完掘状況

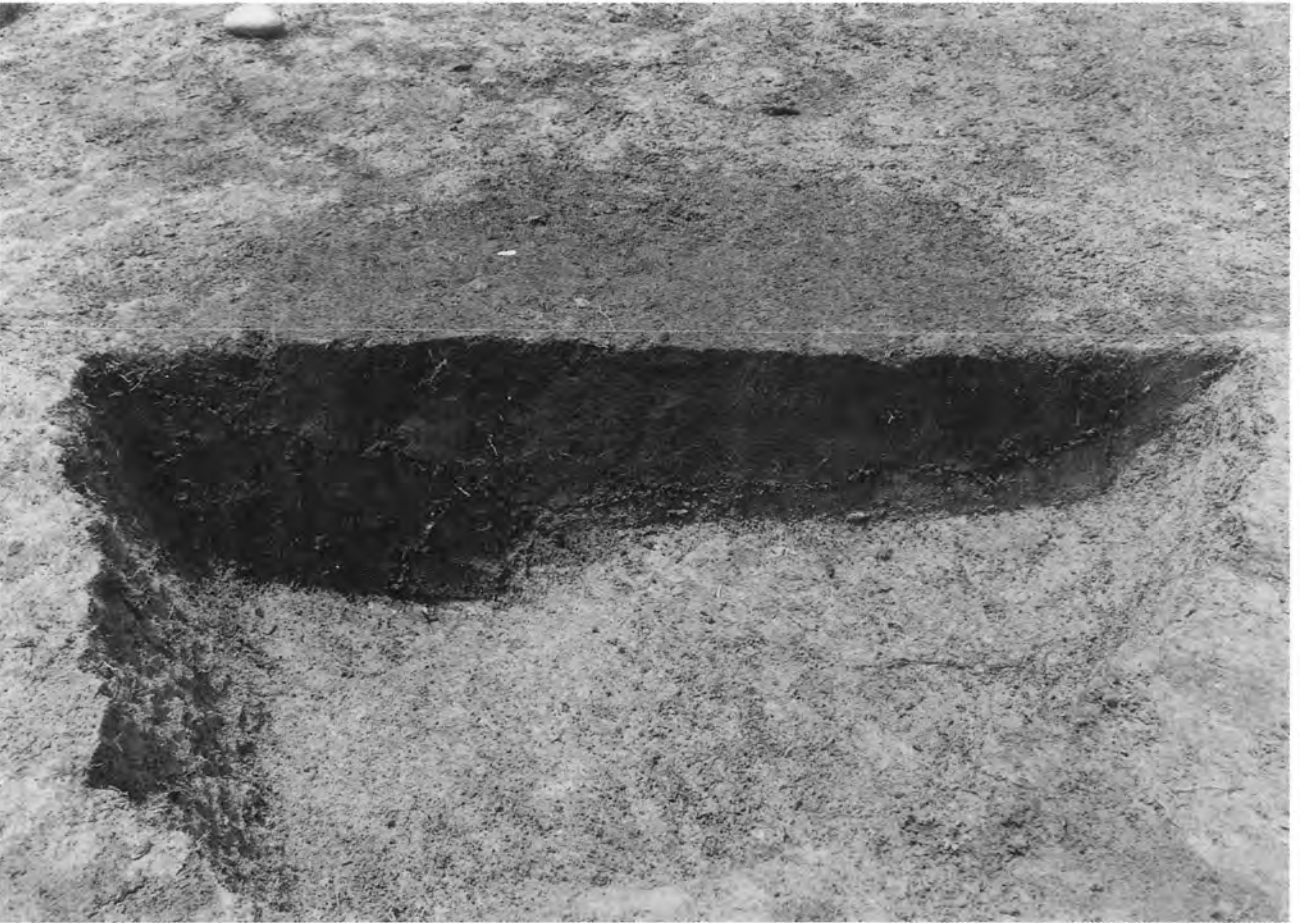


同土層堆積状況

第 6 图版



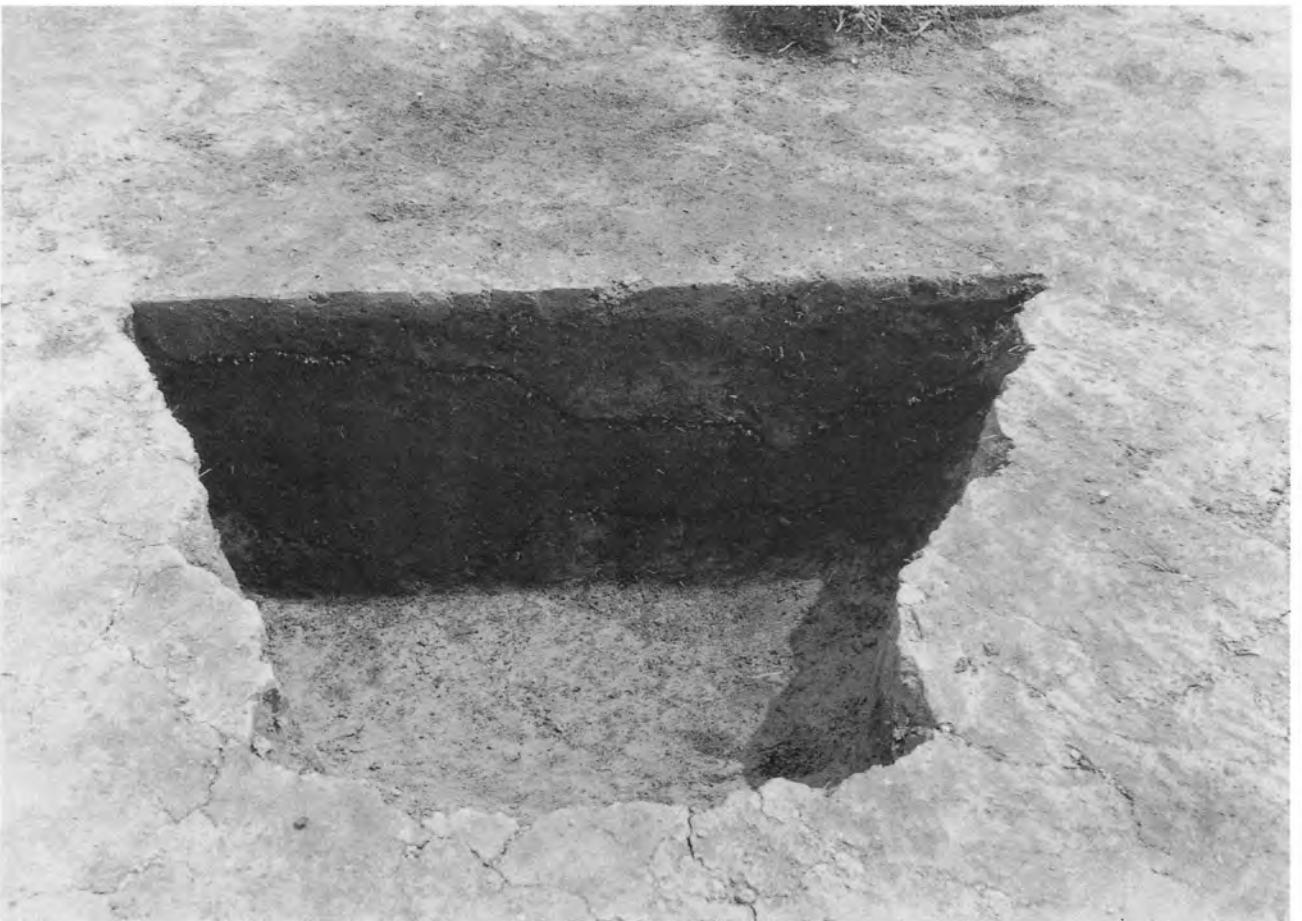
第70号土坑跡完掘狀況



同土層堆積狀況



第71号土坑跡完掘状況



同土層堆積状況

第8図版



第73号～第77号土坑跡完掘状況



同土層堆積状況



第78号焼土遺構完掘状況

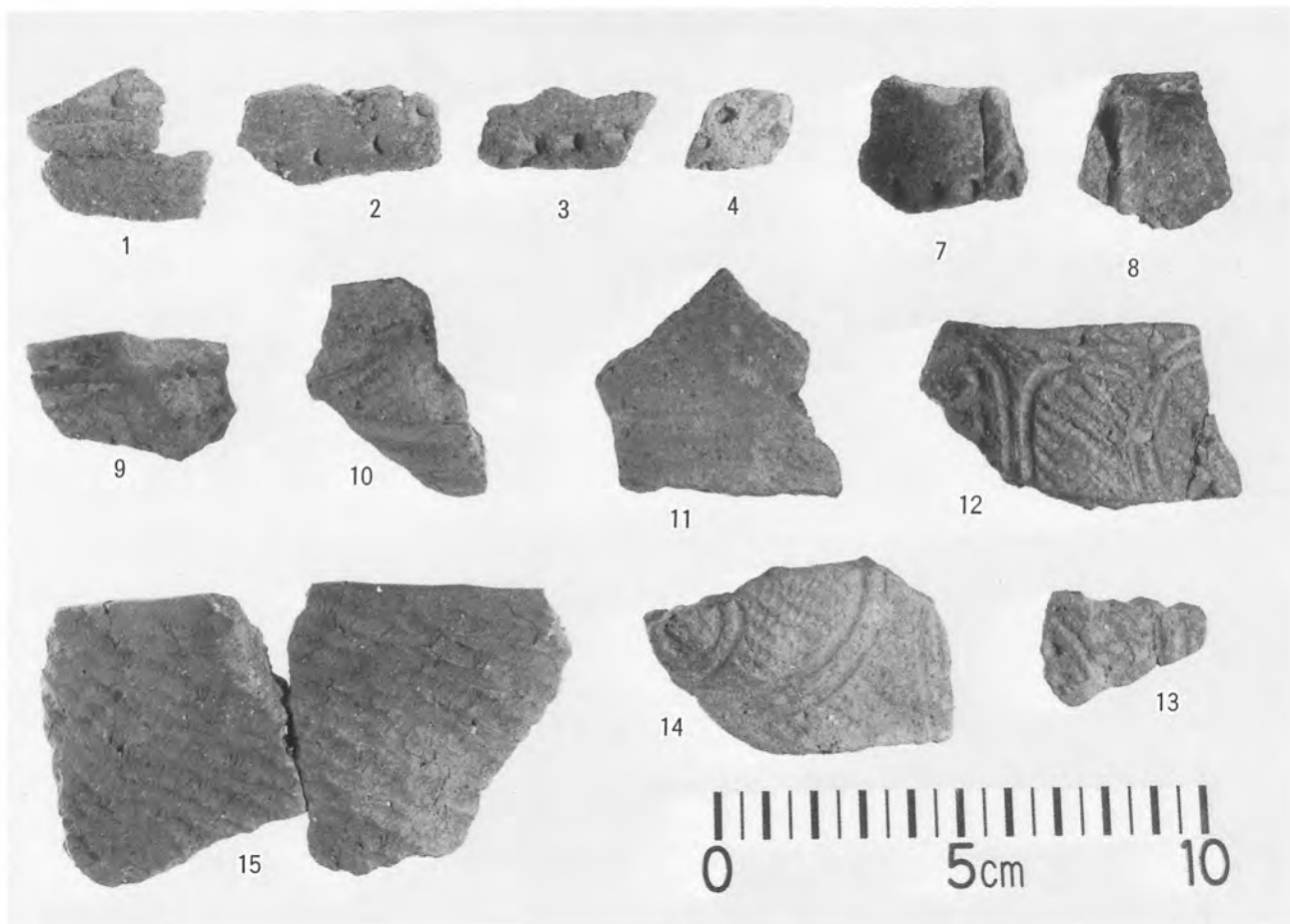


同土層堆積状況

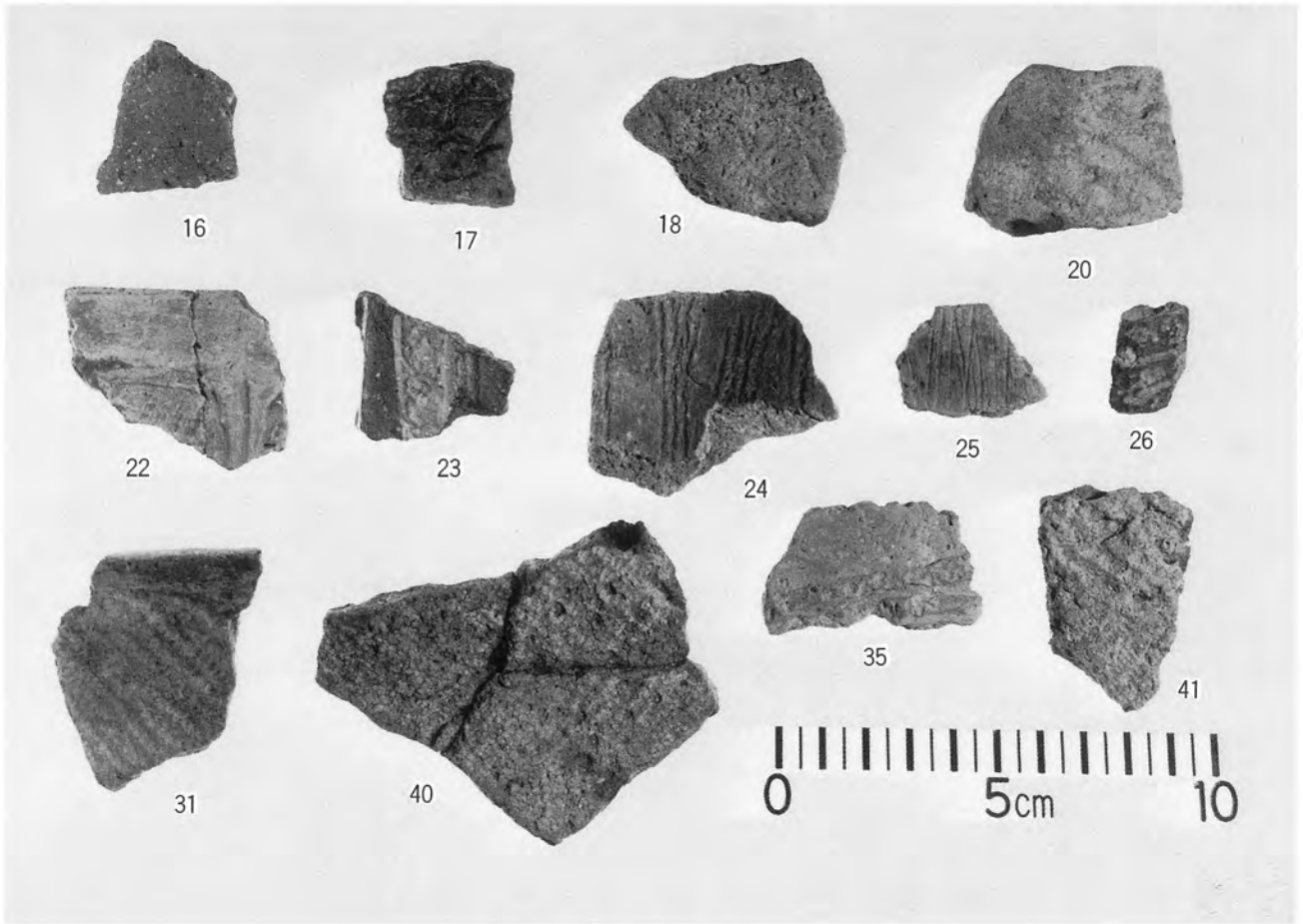
第10図版



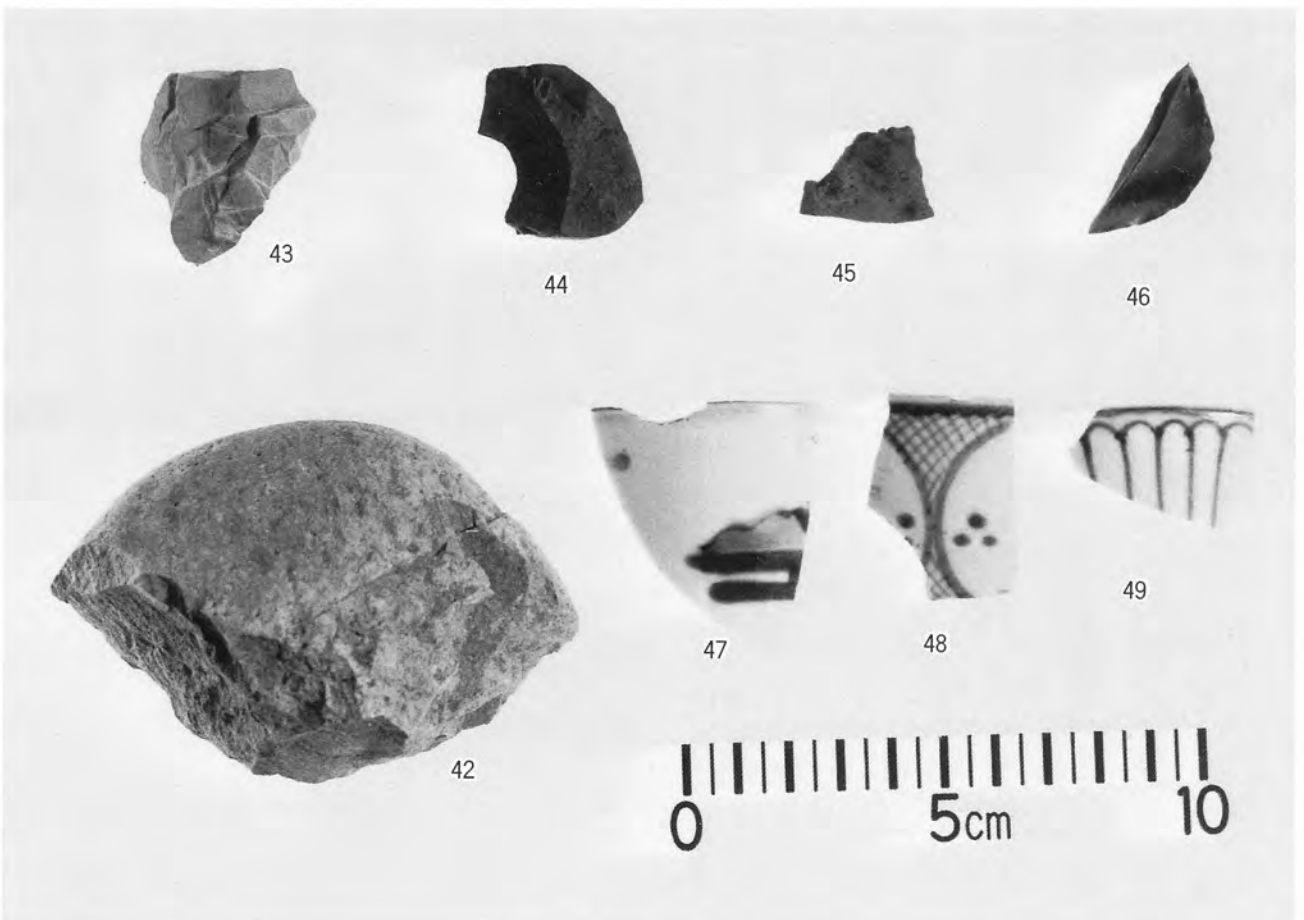
白石遺跡第6次調査B区全景（西より）



出土遺物 (1)



出土遺物 (2)



出土遺物 (3)

報 告 書 抄 録

ふりがな	しろいしいせき
書名	白石遺跡
副次数	第6次発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	No.50
編著者	高橋憲太郎
編集機関	宮古市教育委員会
所在地	〒027 岩手県宮古市新川町2番1号 TEL 0193-62-2111
発行年月日	西暦1997年5月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査機関	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
白石遺跡	岩手県宮古市 大字崎楯ヶ崎 字白石84-1 ほか	—	LG14-2195	39°40'20"	141°58'10"	平成8年4月23日 ～ 平成8年6月4日	600	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白石遺跡	集落	縄文時代前期 縄文時代中期 ～後期 縄文時代	土坑跡1基 墓壇跡1基 土坑跡8基 焼土遺構1基	土器 土器、石器	

宮古市埋蔵文化財調査報告書50

白石遺跡

—第6次発掘調査報告書—

1997.5

発行 岩手県宮古市教育委員会
〒027 宮古市新川町2番1号
TEL 0193-62-2111

印刷 株式会社文化印刷
岩手県宮古市大通2丁目5の2

